

授業概要



12回生

尾北看護専門学校

論理学

講師：下本 英津子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 論理的な思考方法を学び、それを的確に表現する技術を身につける
2. 看護の場で求められる言葉について考える

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	論理とは何か	講義	
2	論理的に考えるためのワークショップ1 「なぜなぜ分析」	講義 GW	
3	論理的に考えるためのワークショップ2 「ロジックツリー」	講義 GW	
4	説得力のある主張のためのワークショップ	講義 GW	
5	論理的に話す「ディベート1」	GW	
6	論理的に話す「ディベート2」	GW	
7	分かりやすい文章とは	講義	
8	研究論文を書く1 「研究計画」	講義	
9	研究論文を書く2 「研究論文の型」	講義	
10	研究論文の発表1	GW	
11	研究論文の発表2	GW	
12	敬語の仕組みと使い方	講義	
13	言葉の力 応用編「インタビューと記録」	講義 GW	
14	言葉の力 応用編「言葉で世界を創造する」	講義 GW	
15	言葉の力 応用編「グラフィックレコーディング」	講義 GW	
16	試験		

■成績評価の方法

筆記試験、授業中のレポートを総合的に評価

■テキスト参考書など

特になし

■学習上の留意点

看護に生かす物理学

講師：高崎 昭彦

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

人体に関連して生ずる物理現象は、一般物理学で扱う純粋な現象と比較し、人体の特性・解剖生理学的要素も絡み合うため複雑になってくる。本科目では数式などを極力用いず、人体や医療に関連する物理現象と身近な物理現象について説明する。医療現場で使われる点滴静脈注射の物理、胸腔ドレナージの物理や臨床検査で用いられるMRI検査、超音波検査で画像が得られる物理的な原理なども講義する。人間工学（物理現象）を深く見る目、物理的に解釈するセンスを養うことを目標とする。

- ・看護・介護業務でのボディメカニクスを説明できる。
- ・実際の業務における物理現象を説明できる。
- ・関連医療機器の原理を説明できる。
- ・生体内の物理現象を説明できる。

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	人間工学とは、医療現場における物理現象1 本科目の概要、医療器具における物理的原理なども含めた身近な物理現象について。	講義	
2	人間工学とは、医療現場における物理現象2 医療現場で用いられる超音波、レーザー、放射線、核磁気共鳴などについて紹介する。	講義	
3	重いものを持つにはどうしたらよいか1 力のモーメントを基に、各筋肉の張力、関節にかかる力を理解させ、人体メカニズムを物理的に考えさせる。	講義	
4	重いものを持つにはどうしたらよいか2 前回の講義を基に、正しい姿勢の大切さも理解させる。	講義	
5	看護ボディメカニクスの物理1 ベット上の患者を起こす方法・動作の意味を物理的に検証していく。 力を節約するための工夫も考えさせる。	講義	
6	看護ボディメカニクスの物理2 車椅子介助の際の物理的な重要事項（遠心力、加速度など）も理解させる。	講義	
7	身近な圧力1 圧力（気圧、水圧）が及ぼす人体への影響を実例をあげて説明する。	講義	
8	身近な圧力2 真空採血管の原理、採血手技のミスによって起こる「バックフロー」の意味、密閉容器の扱い（薬液の出し入れ）、密閉容器と保存温度、圧力との関係を実技形式で学習する。	演習	
9	呼吸器と吸引の物理1 肺・呼吸運動の物理的メカニズムを理解した上で、吸引（ドレナージ）の物理的原理を学ぶ。	講義	
10	呼吸器と吸引の物理2 サイフォンの原理を応用した胃洗浄や、「羊水効果」など生体における物理の原理も説明する。	講義	
11	点滴静脈注射の物理1 点滴静脈注射の手順などを物理的に検証する。	講義	
12	点滴静脈注射の物理2 点滴の連結、滴下速度の計算などの演習を行う。	講義	
13	循環器、感覺器の物理1 ポンプとしての心臓、血液循環と血圧、血流に及ぼす重力の影響など。	講義	

14	循環器、感覚器の物理2 感覚器の特性について学ぶ。	講義	
15	体温制御の物理 体温制御の物理的メカニズムを“熱中症”“発熱”など具体例を基に詳しく学ぶ。	講義	
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

看護学生のための物理学（医学書院）
プリント配布

■学習上の留意点

物理を苦手とする学生は多い。しかし身近な物理現象が生体に与える影響は大きい。医療現場で用いられる装置なども物理の原理の上に成り立っている。物理学を身近に感じてほしい。

情報科学

講師：丹羽 尚子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. コンピュータの基本的な使用方法を身につける
2. 身の回りにある膨大な情報の中から必要な情報を検索し、適切に利用・管理する方法を身につける

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	情報科学とは 1) 情報とは 2) パソコンの基本操作	講義 演習	
2	コンピュータの基礎知識 1) 情報端末の種類と違い	講義 演習	
3	コンピュータの基礎知識 1) 情報の基礎	講義 演習	
4	インターネットについて 1) 情報化社会（インターネット、ICT、リテラシー）	講義 演習	
5	インターネットについて 1) ホームページの閲覧・検索	講義 演習	
6	コンピュータリテラシーとセキュリティ	講義 演習	
7	既存の情報の収集方法 1) 文献検索 2) データベース検索 3) インターネットでの情報収集	講義 演習	
8	調査によるデータ収集方法 1) 様々な調査の手法 2) 倫理的配慮 3) Googleフォームの利用	講義 演習	
9	Excelによる統計解析	講義 ワークショップ	
10	文字情報の整理 1) 論理的な思考 2) 論文の章立てと構成 3) 著作権と引用	講義 演習	
11	Microsoft Wordの使い方 1) レポート（論文）形式文書の作成	講義 レポート	
12	プレゼンテーションの手法 1) 口頭発表とポスター発表 2) プrezentation資料の作成	講義 ワークショップ 発表	
13	グループ発表の準備 1) アンケート作成 2) 集計 3) グラフ作成	講義 演習	
14	グループ発表の準備 1) 発表資料の作成 2) レポートまとめ 3) スライド作成	まとめ	
15	グループ発表	発表	

■成績評価の方法

レポート・プレゼンテーション資料・発表技術を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 別巻 看護情報学（医学書院）

■学習上の留意点

外国語(英語 I)

講師 : Joycylin Bastian

単位数 : 1単位

時間数 : 30時間

授業学年 : 2学年

必修選択 : 必修

■科目目標

1. 看護師としてコミュニケーションに必要とされる簡単な英会話を身につける

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	USEFUL CLASSROOM PHRASES	講義	
2	MEET YOUR NURSE	講義	
3	THE HEALTH PROFESSIONLSKNOWING YOUR PATIENT' S NEED	講義	
4	PATIENT' S NEEDS	講義	
5	ARE YOU READY FOR HEALTH CHECK UP?	講義	
6	I' M A FRUITARAIN! WHAT?	講義	
7	WHAT SHOULD I DO?	講義	
8	HOW ABOUT WEDNESDAY MORNING?	講義	
9	PERFORMNCE DAY	GW	
10	HEALTHY LIFESTYLE	講義	
11	EAT RIGHT, SLEEP WELL, LAUGH MORE	講義	
12	LIFE IN THE HOSPITAL	講義	
13	PRACTICE TEST	テスト	
14	WHAT IS THIS FOR?	講義	
15	NOT SICK, JUST TIRED FINAL TEST	講義 テスト	

■成績評価の方法

筆記試験・Performance Test ・授業参加態度を総合的に評価

■テキスト参考書など

PRACTICAL ENGLISH FOR JAPANESE NURSE (初回の講義に講師が持参する)

■学習上の留意点

外国語(英語Ⅱ)

講師 : Joycylin Bastian

単位数 : 1単位

時間数 : 15時間

授業学年 : 3学年

必修選択 : 必修

■科目目標

1. 様々な場面で応用できるような英会話能力を身につける
2. 國際的な文献に関心をもつことができる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	How may I help you?	講義	
2	How are you feeling? Let me take your vital signs.	講義	
3	What are your symptoms? How long have you had these symptoms?	講義	
4	Talking about your pain Where dose it hurt?	講義	
5	I'm going to take a blood sample. Your surgery will be tomorrow.	講義	
6	Keeping in touch	講義	
7	Surgery instruction, Kinds of medicine	講義	
8	Summary cesson/Final test		

■成績評価の方法

筆記試験・小テスト・授業参加態度を総合的に評価

■テキスト参考書など

特になし
講師がプリント持参

■学習上の留意点

哲学

講師：小川 真理子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

1. 「人間とは何か」「人間はどう生きるべきか」について考え、人間の存在・価値観などが理解できる
2. 身近な社会問題を取り上げ、倫理的な基本的考え方を学ぶ

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	「人間と人間の生死」 生死～「生老病死に問い、 “私” に問う」	講義	
2	「人間と人間の生死」 さまざまな死と看取り①	DVD鑑賞 講義	
3	「人間と人間の生死」 さまざまな死と看取り②	DVD鑑賞 講義	
4	「人間の価値観」 生きる意味・いのちの尊厳とは何か①	講義	
5	「人間の価値観」 生きる意味、いのちの尊厳とは何か②	DVD鑑賞 講義	
6	「人間の価値観」 生きる意味、いのちの尊厳とは何か③	DVD鑑賞 講義	
7	「人間の価値観」 生きる意味、いのちの尊厳とは何か④	講義	
8	「人間と人間の生死」 現代の医療を通して” いのち ” を考える	講義	
9	「人間の価値観」 生きる意味 存在の価値①	DVD鑑賞 講義	
10	「人間の価値観」 生きる意味 存在の価値②	DVD鑑賞 講義	
11	「生命倫理」 いのちは平等である、しかし現実はどうか①	講義	
12	「生命倫理」 いのちは平等である、しかし現実はどうか②	講義	
13	「人間の価値観」 「生死」さまざまな生と死のありよう	講義	
14	「生きる意味 死の意味」 戦争・社会（人間）が作り出す病気①	講義	
15	「生きる意味 死の意味」 戦争・社会（人間）が作り出す病気② 試験	講義	後半45分テスト

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

特になし

■学習上の留意点

心理学

講師 : Keshia Vianny Sundjaja

単位数 : 1単位

時間数 : 30時間

授業学年 : 1学年

必修選択 : 必修

1. 人間を理解するため健康な人間の心理を学ぶ
2. カウンセリングの目的・目標が理解できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	心理学とは 1) オリエンテーション 2) 心理学とは何か	講義	
2	認知からの人間理解 1) 感覚・知覚 2) 短期記憶・長期記憶	講義	
3	認知からの人間理解 1) 記憶と想起 2) 言語とコミュニケーション	講義	
4	行動からの人間理解 1) 欲求・動機付け	講義	
5	行動からの人間理解 1) 適応の心理学 2) 学習と行動	講義	
6	パーソナリティからの人間理解 1) パーソナリティとは 2) 知能の理解	講義	
7	パーソナリティからの人間理解 1) 性格理解 2) 自己理解	講義	
8	人間関係から人間関係 1) 対人認知と対人関係 2) 社会・集団の心理	講義	
9	発達からの人間理解 1) 愛着・発達 2) 発達課題と教育	講義	
10	発達からの人間理解 1) 発達障害の理解 2) 高齢者の心理	講義	
11	カウンセリングと心理療法 1) ストレス・欲求不安 2) 葛藤・防衛	講義	
12	カウンセリングと心理療法 1) カウンセリングとは 2) カウンセリングの目標	講義	
13	カウンセリングと心理療法 1) 心理療法の方法	講義	
14	カウンセリングと心理療法 1) カウンセラーの基本的態度	講義	
15	ロールプレイ	演習	
16	筆記試験		

■成績評価の方法

授業参加態度20点・筆記試験80点の総合評価

■テキスト参考書など

現代心理学の基礎と応用－人間理解と対人援助－

■学習上の留意点

教育学

講師：千田 沙也加

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 教育学の知識を得ることを通して、看護職に就くものに必要とされている人間理解への基礎的な視座を獲得する。多様な教育的価値観や教育方法があることを理解し、指導力の高い看護師を目指します。それと同時に、コミュニケーション能力を身に付け、相手を理解し、そして自分の意見を伝えられるようになることを目的とします。

具体的には以下を、本授業の到達目標とする。

- ①看護と教育学の基本的な関係を理解する。
- ②考えること、学ぶことについて基礎的な理解ができる。
- ③歴史や文化、社会によって多様な教育があることを知る。
- ④コミュニケーション能力を身に付け、自ら学び、教えられるようになる。

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	オリエンテーション 1) 看護師を目指す人のための教育学とは 2) 授業について・単位について	講義	
2	学ぶことと教えること 1) 人に固有な営みである教育 2) 「人間」とは何か	講義	
3	人の発達 1) 人の発達に関連する理論や枠組みを通しての発達の特徴	講義	
4	学習の原理 1) 学習の仕組み 2) 看護の現場での有効な指導法	講義	
5	「指導者」の役割と姿勢 1) 「指導者」としての看護師 2) 「指導者」と「学習者」との望ましい関係性	講義	
6	指導設計 1) 指導の設計 2) 学習を効果的に支援する方法	講義	
7	効果的な指導 1) 指導全体の実際とデザイン	講義	
8	学習の評価 1) 学習者の到達度の把握 2) 効果を高める評価法	講義	
9	学習意欲を高める技法 1) 学習者の意欲と向上 2) その技法の習得	講義	
10	コミュニケーションの技法 1) 人間関係づくりのためのコミュニケーション 2) 非言語的コミュニケーション 3) 発問といったコミュニケーション	講義	
11	ディスカッションの技法 1) ディスカッションの意義 2) 学習効果を高めるディスカッションと学習者を導く技法	講義	
12	看護師としての学習 1) 看護師としての学習の特徴 2) 現場に応じ得る学習態度	講義	
13	キャリア開発 1) 看護師のキャリア段階と将来の自分 2) 自己開発のための学習法	講義	
14	教育・看護と人権 1) 教育と人権の関係を歴史的に考察 2) 看護と人権の理解	講義	

15	講義まとめ	講義	
16	試験		

■成績評価の方法

毎回、出席確認をかねてリアクション・ペーパーの提出もしくは小テスト20%、単位認定試験80%とする。
 (1) 授業内容を正しく理解しているか（傾聴力） (2) 授業内容から課題をみつけられるか（課題発見力） (3) 課題に対する自分の考えを自分の言葉で表現できているか（発信力） (4) 自ら主体的に考え、学びとろうとする姿勢があるか（主体性）
 これらの4つを総合的に評価します。

■テキスト参考書など

看護のための教育学（医学書院）

■学習上の留意点

配布資料をまとめるファイルを用意してください。
 積極的な授業への参加を期待しています。

人間発達学

講師：樋 誠

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 人間の発達とは何か、発達にはどのような要因が影響するかを学ぶ
2. 人間を発達という視点から捉え、身体的・社会的・心理的側面のあるホリスティックな存在であることが理解できる
3. ライフサイクルの各期における発達課題を、発達理論をもとに学習すると共に各発達段階における人々の陥りやすい問題を理解し、看護に生かせる基本的知識を身につける

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	人間と発達 発達の定義 関連用語 人間発達の特異性	講義	
2	人間と発達 人間の発達の共通性、発達に影響を及ぼす因子	講義	
3	人間発達と理論 人間発達の理論、エリクソンの自我発達性理論、心理社会的危機	講義	
4	人間発達と理論 エリクソンの自我発達理論 青年期、成人期	講義	
5	人間発達と理論 ピアジェの認知的発達理論	講義	
6	人間発達と理論 直観的思考段階 自己中心性 アニミズム ボウルビィの愛着理論	講義	
7	人間発達と理論 愛着 愛着行動 愛着の発達 ハヴィガースト発達課題	講義	
8	人間のライフサイクルと発達 (形態・機能、心理、社会、発達に関する問題) 胎児期の心と身体 胎芽期 胎児期 サリドマイド 先天性風疹症候群 脳性まひ	講義	
9	人間のライフサイクルと発達 (形態・機能、心理、社会、発達に関する問題) 乳幼児期の心と身体 新生児期、乳児期、幼児期、原始期 言語の発達 (哺語、一語文、二語文)	講義	
10	人間のライフサイクルと発達 (形態・機能、心理、社会、発達に関する問題) 発達の評価 (知能指數 発達指數 発達スクリーニング検査) 児童虐待 (身体的虐待 ネグレクト 心理的虐待 性的虐待) 愛着 障害	講義	
11	人間のライフサイクルと発達 (形態・機能、心理、社会、発達に関する問題) 学童期の心と身体、ギャング集団、メタ認知、認知、保存 仲間関係の発達、モデルとしての仲間、指導者としての仲間	講義	
12	人間のライフサイクルと発達 (形態・機能、心理、社会、発達に関する問題) 自己概念の発達、思春期の心と身体、性的成熟、思春期サポート、 ボディイメージ 思春期やせ症、第二次反抗期	講義	
13	人間のライフサイクルと発達 (形態・機能、心理、社会、発達に関する問題) 青年期の心と身体、アイデンティティステイタス 古典的モラトリアムと現代型モラトリアム	講義	

14	人間のライフサイクルと発達（形態・機能、心理、社会、発達に関する問題） 成人期の心と身体、生殖性（世代細小性）と停滞、中年期うつ病、ストレスモデル（ストレス反応、ストレッサー）	講義	
15	人間のライフサイクルと発達（形態・機能、心理、社会、発達に関する問題） 老年期の心と身体、統合と絶望、死への態度、流動性知能と結晶性知能 認知症、アルツハイマー	講義	
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

看護のための人間発達学（医学書院）

■学習上の留意点

人間関係論

講師：菅 吉基

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 人ととの関係性について学術的な学びを深める
2. 可能であるならば人と関わるうえでの人間性についても深く考察していきたい

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	人間関係論概論 1) オリエンテーション	講義	
2	人間関係論概論 1) 人間関係の形成 2) 人間関係の在り方	講義	
3	社会的推論 1) 原因復帰の推論	講義	
4	社会的推論 1) スキーマ・バイアスについて	講義	
5	集団と個人 1) 他者存在の影響	講義	
6	集団と個人 2) リーダーシップ	講義	
7	人間関係 1) 人格的特徴・身体的特徴	講義	
8	人間関係 2) 対人的葛藤	講義	
9	対人行動 1) 自己意識・自己開示	講義	
10	対人行動 2) 援助関係 3) 攻撃性	講義	
11	対人認知 1) 印象形成 2) 対人記憶	講義	
12	対人認知 3) 対人認知における歪み	講義	
13	態度 1) 態度・認知的一貫性	講義	
14	態度 2) 説得的コミュニケーション	講義	
15	まとめ・試験		

■成績評価の方法

筆記試験、出席・授業参加度

■テキスト参考書など

特になし

■学習上の留意点

家族社会学

講師：岡元 行雄

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 社会の最も基礎的な集団である家族について理解を深める
2. 家族の定義・家族に関する基礎的な概念を学び、家族社会学的視点を身につける

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1.自己と家族 1)家族意識 2)自己覚知	講義	
2	1.自己と家族 1)家族の定義	講義	
3	1.自己と家族 1)家族類型	講義	
4	1.自己と家族 1)手段的役割 2)表出的役割 3)戦後の家族の特徴	講義	
5	1.人生設計からみた家族 1)新しい家族像の模索 2)パートナーの選択	講義	
6	1.いきなり結婚族	演習	
7	1.いきなり結婚族	演習	
8	1.婚姻の儀式 2.戸籍と夫婦同姓	講義	
9	1.個人主義 社会の恋愛①	講義 演習	
10	1.個人主義 社会の恋愛②	講義 演習	
11	1.個人主義 社会の恋愛③	講義 演習	
12	1.個人主義 社会の恋愛④	講義 演習	
13	1.結婚式の変遷 2.婚姻の儀式	講義	
14	1.同性婚 2.L G B T 3.女らしさと男らしさ	講義	
15	1.カナダの家族から考える	講義	
16	筆記試験		

■成績評価の方法

授業中の演習問題、筆記試験

■テキスト参考書など

新パートナーシップの家族社会学（学文社）

■学習上の留意点

スポーツと健康 I

講師：脇坂 康彦

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. スポーツをとおしてチームワークの必要性を学ぶ
2. 心身の健康を保つうえでのスポーツの役割が理解できる
3. スポーツをとおして自己の健康づくりができる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	運動の大切さ、講義内容ガイダンス ボールを使ってのサーキットトレーニング	講義 実技	
2	「バレーボール」 キャッチボール、オーバー・アンダーハンドパス アタック・サーブ	実技	
3	「バレーボール」 キャッチボール、オーバー・アンダーハンドパス ゲームの説明・ゲーム	実技	
4	「バレーボール」 キャッチボール、オーバー・アンダーハンドパス サーブ、ゲーム	実技	
5	「バレーボール」 キャッチボール、オーバー・アンダーハンドパス サーブ、ゲーム	実技	
6	脳トレーニング、コミュニケーショントレーニング 体力トレーニング	実技	
7	「バレーボール」 キャッチボール、オーバー・アンダーハンドパス サーブ、ゲーム	実技試験	
8	「テニス」 2人1組でストローク、6対6 サーブ・サーブレシーブ	実技	
9	「テニス」 2人1組でストローク、6対6 サーブ・サーブレシーブ、ゲーム（ダブルス）	実技	
10	「テニス」 2人1組でストローク、6対6 サーブ・サーブレシーブ、ゲーム（ダブルス）	実技	
11	「テニス」 2人1組でストローク、6対6 サーブ・サーブレシーブ、ゲーム（ダブルス）	実技	
12	テニスボールを使ったサーキットトレーニング レクリエーション	実技	
13	「テニス」 2人1組でストローク、6対6 サーブ・サーブレシーブ、ゲーム（ダブルス）	実技	
14	「テニス」 2人1組でストローク、6対6 サーブ・サーブレシーブ、ゲーム（ダブルス）	実技試験	
15	「テニス」 2人1組でストローク、6対6 サーブ・サーブレシーブ、ゲーム（ダブルス）	実技	

■成績評価の方法

実技の到達状況・出席状況・授業参加態度を総合的に評価

■テキスト参考書など

特になし

■学習上の留意点

体操服で参加

スポーツと健康Ⅱ

講師：榎原 浩文

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

- からだを動かし、自分で自分を癒す方法を学ぶ
- からだを通してこころとの結びつきを考える

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	ヨガについて 上半身、下半身ほぐし・背骨調整ポーズ	実技	
2	上半身、下半身ほぐし・呼吸法 背骨調整ポーズ②、ペアーヨガ（背骨、下半身柔軟）	実技	
3	上半身、下半身ほぐし・呼吸法 下半身調整ポーズ、ペアーヨガ（下半身中心柔軟）	実技	
4	上半身、下半身ほぐし・呼吸法 背骨強化ポーズ、ペアーヨガ（背骨強化）	実技	
5	上半身、下半身ほぐし・呼吸法、体側調整強化ポーズ 上半身強化ポーズ、ペアーヨガ（体側、上半身強化ポーズ）	実技	
6	上半身、下半身ほぐし・呼吸法、体側調整強化ポーズ 上半身強化ポーズ、ペアーヨガ（体側、上半身強化ポーズ）	実技	45分間
7	試験		

■成績評価の方法

実技の到達状況・出席状況・授業参加態度を総合的に評価

■テキスト参考書など

特になし

■学習上の留意点

体操服で参加

看護における形態と機能 I

講師：今井 英夫

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 看護の視点からからだの構造と機能を学ぶ必要性が理解できる
2. 内部環境の恒常性を維持するとはどういうことか理解できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 看護の土台となる形態と機能 1) 何のための生活行動か 2) 生きているとはどういうことか 3) 人体の素材として細胞・組織 4) 形態と機能からみた人体	講義	
2	1. 内部環境の恒常性 1) ホメオスタシスとフィードバック	講義	
3	1. 内部環境の恒常性 1) 体液量	講義	
4	1. 内部環境の恒常性 1) 浸透圧と電解質	講義	
5	1. 内部環境の恒常性 1) PHについて	講義	
6	1. 内部環境の恒常性 1) アシドーシスとアルカローシス	講義	
7	1. 内部環境の恒常性 1) 重炭酸緩衝系	講義	
8	1. 内部環境の恒常性 1) 酸素・血糖・体温	講義	
9	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

看護形態機能学（日本看護協会出版会）
系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）
ぜんぶわかる人体解剖図（成美堂出版）

■学習上の留意点

看護における形態と機能Ⅱ

講師：佐野 幹、渡部 敏俊

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

- 恒常性を維持するための物質の流通①媒体：血液のしくみが理解できる
- 恒常性を維持するための物質の流通②流通路：血管・リンパ管のしくみが理解できる
- 恒常性を維持するための物質の流通③原動力：心臓のしくみが理解できる
- 恒常性を維持するための物質の流通①神経性調節情報を収集し、判断して伝達するしくみが理解できる
- 恒常性を維持するための物質の流通②液性調節・ホルモンのしくみが理解できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 恒常性を維持するための物質の流通	講義	講師：佐野
2	1. 血液のしくみ 1) 赤血球 2) 白血球 3) 血小板 4) 血漿タンパク質と赤血球沈降速度	講義	講師：佐野
3	1. 血液の凝固と纖維素溶解 2. 血液型	講義	講師：佐野
4	1. 流通路のしくみ① 1) 血管の構造 2) 肺循環の血管	講義	講師：佐野
5	1. 流通路のしくみ② 1) 全身の動脈・静脈 2) リンパとリンパ管	講義	講師：佐野
6	1. 原動力のしくみ 1) 心臓の構造 2) 心臓の拍出機能	講義	講師：佐野
7	1. 恒常性を維持するための調節機構 2. 神経性調節のしくみ 1) 神経系の構造	講義	講師：渡部
8	1. 神経性調節のしくみ 1) 脊髄と脳	講義	講師：渡部
9	1. 神経性調節のしくみ 1) 脊髄と脳	講義	講師：渡部
10	1. 神経性調節のしくみ 1) 脊髄神経と脳神経	講義	講師：渡部
11	1. 神経性調節のしくみ 1) 脳の高次機能 2) 運動機能と下行伝導路 3) 感覚機能と上行伝導路 4) 情報伝達のしくみ	講義	講師：渡部
12	1. 液性調節のしくみ 1) 自律神経による調節	講義	講師：渡部
13	1. 液性調節のしくみ 1) 内分泌系による調節	講義	講師：渡部
14	1. 液性調節のしくみ 1) 全身の内分泌腺と内分泌細胞	講義	講師：渡部
15	1. 液性調節のしくみ 1) ホルモン分泌の調節と実際	講義	講師：渡部
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

看護形態機能学（日本看護協会出版会）

系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)

ぜんぶわかる人体解剖図（成美堂出版）

■学習上の留意点

看護における形態と機能III

講師：山下 千代美、天野 果奈、丹羽 真美

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

- 日常生活行動 「①動く ②眠る・休息する ③息をする」ことの意義としくみが理解できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 動くためのしくみ 1) 動くことの意義 ・姿勢—体位 ・歩くまでの過程 ・立位の保持・良肢位	講義	
2	1. からだを支える・からだを動かすしくみ 1) 骨格（体幹・体肢）とは 2) 骨の形態と構造	講義	
3	1. からだを支える・からだを動かすしくみ 1) 骨の連結—関節 2) 骨格筋と筋の収縮	講義	
4	1. からだを支える・からだを動かすしくみ 1) 骨格と筋—体幹① 2) 形態機能シャツ作り	講義演習	持ちもの：購入したタートルネック、油性ペン（黒色・太め）
5	1. からだを支える・からだを動かすしくみ 1) 骨格と筋—体幹② 2) 骨格と筋—体肢	講義	
6	1. からだを支える・からだを動かすしくみ ・日常生活行動と基本的な動き①	講義	
7	1. からだを支える・からだを動かすしくみ ・日常生活行動と基本的な動き②	演習	
8	1. からだを支える・からだを動かすしくみ まとめ	講義	持ちもの：完成した骨シャツ
9	1. 息をすることの意義 2. 息をするための構造	講義	
10	1. 息をするためのしくみ（概要）	講義	グループワークの個人学習を進める
11	1. 息をする 各部位の構造と機能 形態機能Tシャツ 呼吸器系の位置決め	GW個人ワ テキスト「写真で分 かる看護のための フィジカルアセスメ ント」持参	「動く」で作成した 形態機能Tシャツ持 参
12	1. 息をする 各部位の構造と機能	ジグソー学習 発表会	講堂
13	1. 息をする 各部位の構造と機能	ジグソー学習 発表会	
14	1. 眠る・休息の意義 2. からだのリズム	講義	
15	3. 眠り 1) ノンレム睡眠 2) レム睡眠 3) 睡眠パターン	講義	
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験・課題・演習内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

看護形態機能学（日本看護協会出版会）

系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）

ぜんぶわかる人体解剖図（成美堂出版）

■学習上の留意点

2穴ファイル（ポケットファイルも可）

油性ペン（黒色・太め）・・・数色（3色程度）あるとよい

看護における形態と機能IV

講師：天野 果奈、奥山 美佐恵
石崎 敦子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 日常お生活行動「①食べる ②トイレに行く ③子どもを産む」ことの意義としくみが理解できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	食べるに必要なしくみ 1. 食べることの意義 2. 食べるための構成	講義	
2	食べるに必要なしくみ 1. 食べることの意義 2. 食べるための構成	講義	
3	3. 食べるためのしくみ 1) 摂食行動	講義	
4	3. 食べるためのしくみ 2) 咀嚼・味わう	講義 演習	
5	3. 食べるためのしくみ 3) 噫下	講義 演習	
6	3. 食べるためのしくみ 4) 消化	講義	
7	3. 食べるためのしくみ 5) 吸収	講義	
8	3. 食べるためのしくみ まとめ	講義	
9	トイレに行くためのしくみ 1. トイレに行くことの意義 2. 尿を生成するしくみ 1) 腎臓	講義	講師：奥山
10	2. 尿を生成するしくみ 2) 排尿路	講義	
11	2. 尿を生成するしくみ 3) 体液の調整	講義	講師：奥山
12	2. 尿を生成するしくみ 4) 排尿するしくみ	講義	講師：奥山
13	3. 便を生成するしくみ 1) 大腸の作用 2) 排便するしくみ	講義 演習	講師：奥山
14	4. トイレに行くためのしくみ 1) 尿意・便意 2) トイレまでの移動・排泄行動	講義 演習	講師：奥山
15	子どもを産むしくみ 1. 女性と男性の生殖のしくみ 2. 生殖を支えるしくみ	講義	講師：石崎
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験・課題・演習内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

看護形態機能学（日本看護協会出版会）

系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学（医学書院）

ぜんぶわかる人体解剖図（成美堂出版）

■学習上の留意点

看護における形態と機能V

講師：白木 精、川部 幹子
萱野 明子、奥山 美佐恵

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

- 日常生活行動 「①コミュニケーション行動（話す・みる・きく）②お風呂に入る」ことの意義としくみが理解できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. お風呂に入ることの意義 2. 皮膚のしくみ 1) 皮膚の組織構造 2) 皮膚の付属器	講義	
2	3. 皮膚・粘膜の機能 1) 生体防御機能 2) 体温調節機能 3) 感覚機能	講義	
3	1. コミュニケーション行動のしくみ	講義	
4	1. みるためのしくみ 1) 視覚器の構造と機能	講義	
5	1. きくためのしくみ 1) 耳の構造 2) 聴覚 3) 平衡感覚	講義	
6	1. 話すためのしくみ 1) 声を出す 2) 言葉	講義	
7	1. コミュニケーション行動	GW	
8	1. コミュニケーション行動		45分

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

看護形態機能学（日本看護協会出版会）
系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）
ぜんぶわかる人体解剖図（成美堂出版）

■学習上の留意点

看護における形態と機能VI

講師：木下 美奈子

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

- からだのしくみがどのように日常生活行動を成し遂げているか探究する

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	授業の進め方 評価の方法について	講義	45分
2	自己の探究テーマを決める 自分の1日の日常生活行動を振り返り、疑問に思うまたは興味があるからだのしくみを取りあげる	個人ワーク	看護における形態と機能 I～V のテキスト、授業資料を持参する
3	形態機能まとめのテスト	テスト	
4	自己が探究するテーマについての調べ学習	演習	
5	自己が探究するテーマについての調べ学習	演習	
6	プレゼン資料作成	演習	
7	自己で調べたものの発表と学びの共有	発表	講堂
8	自己で調べたものの発表と学びの共有	発表	当日、他者評価表提出 後日指定された日時に自己評価表と発表後レポート提出

■成績評価の方法

演習への取り組み姿勢・発表・レポートを総合的に評価

■テキスト参考書など

特になし

■学習上の留意点

臨床生化学

講師：安部 彰

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 人間の体がどのような物質で成り立っているのか、それらの物質がどのように作られ、分解され調節されて健康を維持しているかを学ぶ
2. 代謝調整の乱れと疾患の関係性を細胞、臓器別および先天性異常、遺伝病からも学ぶ
3. 生体で起きている化学反応から生命活動の状況を判断でき、看護のアセスメントに生かすことができる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 生体のエネルギーとは 1) 代謝 2) 物質代謝とエネルギー	講義	
2	2. 生命の維持に必要な栄養素の性質 1) 細胞 2) 糖類	講義	
3	3) 脂質 4) アミノ酸とタンパク質	講義	
4	5) 核酸とヌクレオチド	講義	
5	6) ビタミン	講義	
6	3. 生体で起きている化学反応 1) 糖質の代謝	講義	
7	2) 脂質の代謝	講義	
8	3) タンパク質とアミノ酸の代謝 4) その他の生体物質の代謝	講義	
9	中間試験・解説	試験 講義	
10	4. 遺伝情報 1) 遺伝情報を担う物質 2) DNAの複製 3) DNAからRNAへの転写 4) RNAからタンパク質への翻訳 5) 遺伝子の変化 6) 遺伝診断	講義	
11	5. 先天代謝異常 1) 先天性代謝異常の概念	講義	
12	2) 受容体の異常	講義	
13	3) タンパク質の異常	講義	
14	6. 自己の栄養状態のアセスメント	講義	
15	7. 臨床生化学からみた病態	講義	
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験・レポートを総合的に評価

■テキスト参考書など

わかりやすい生化学（ヌーヴェルヒロカワ）

■ 学習上の留意点

病因論

講師：福山 隆一

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 健康障害と治療を学ぶための基礎として、疾病の原因・発症機序を学ぶ
2. 老化と死について学ぶ

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 疾病とは 2. 疾病の原因・分類 1) 内因・外因 2) 医原病と公害病 3. 老化と死 1) 細胞の老化と固体の老化 2) 加齢に伴う諸臓器の変化 3) 個体の死	講義	
2	1. 先天異常と遺伝子異常 1) 先天異常とは 2) 遺伝子異常とは	講義	
3	1. 代謝障害 1) 萎縮、肥大と過形成、壞死 2) 物質沈着 3) 代謝障害とは	講義	
4	1. 循環障害 1) うつ血 2) 虚血 3) 血栓・塞栓 4) 出血・凝固 5) 浮腫	講義	
5	1. 炎症と免疫 1) 炎症の原因、経過、治療 2) 免疫 ・免疫とは ・免疫に関与する細胞 ・抗体、補体 ・能動免疫、自然免疫	講義	
6	1. 再生と修復 1) 再生とは 2) 創傷治癒と肉芽組織	講義	
7	1. 腫瘍 1) 腫瘍の分類 2) 悪性腫瘍の転移と進行度	講義	
8	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 (医学書院)

■学習上の留意点

臨床薬理学

講師：田中 廣美

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

- 薬物の作用・副作用を知り、生体に及ぼす影響が理解できる
- 安全に与薬援助ができるための基礎的知識である薬物の取り扱い、管理方法が理解できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 総論 1) 薬物による病気の治療 2) 薬物動態学・薬力学 3) 薬物相互作用	講義	
2	1. 総論 1) 薬効の個人差 2) 薬物作用の有益性と危険性 3) 薬と法律	講義	
3	1. 抗がん剤 2. 免疫治療薬 (1)	講義	
4	1. 免疫治療薬 (2) 2. 抗アレルギー薬 3. 抗炎症薬	講義	
5	1. 末梢神経系に作用する薬物	講義	
6	1. 中枢神経系に作用する薬物 (1)	講義	
7	1. 中枢神経系に作用する薬物 (2)	講義	
8	1. 循環器系に作用する薬物 (1)	講義	
9	1. 循環器系に作用する薬物 (2)	講義	
10	1. 抗感染症薬	講義	
11	1. 物質代謝に作用する薬物	講義	
12	1. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	講義	
13	1. 眼科・皮膚科薬 2. 漢方薬 3. 消毒薬 4. 食中毒	講義	
14	1. 輸液剤 2. 輸血剤 3. 計算問題	講義	
15	1. 総復習	講義	
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学

■学習上の留意点

微生物学

講師：舟橋 恵二

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 人間の健康を脅かす病原微生物の種類と性質を学ぶ
2. 感染とその生体防御機構を学ぶ
3. 感染予防の基礎が理解できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	微生物の種類と特徴 感染対策とリスクマネジメント	講義	
2	微生物の種類と特徴 微生物学基礎	講義	
3	感染の予防 滅菌と消毒、感染症法について	講義	
4	主な病原微生物と感染症 グラム陽性球菌	講義	
5	主な病原微生物と感染症 グラム陰性球菌	講義	
6	主な病原微生物と感染症 グラム陰性桿菌	講義	
7	主な病原微生物と感染症 原虫	講義	
8	主な病原微生物と感染症 グラム陽性桿菌	講義	
9	感染と発病 抗菌化学療法について	講義	
10	感染の予防 感染対策について	講義	
11	主な病原微生物と感染症 ウイルス①	講義	
12	主な病原微生物と感染症 ウイルス②	講義	
13	主な病原微生物と感染症 ウイルス③	講義	
14	主な病原微生物と感染症 ウイルス④	講義	
15	感染症の現状と対策	講義	
16	試験	試験	

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座疾病の成り立ちと回復の促進 [4] 微生物学 (医学書院)

■学習上の留意点

健康障害と治療 I

講師：荒木 有三、藤林 孝義、
加藤 宗一

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 脳・神経機能の障害による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ
2. 運動機能の障害による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	脳・神経機能の障害と治療 脳神経の構造と機能	講義	講師：荒木
2	脳・神経機能の障害と治療 主な症状と病態生理 脳神経障害	講義	講師：荒木
3	脳・神経機能の障害と治療 主な症状と病態生理 脳血管障害	講義	講師：荒木
4	脳・神経機能の障害と治療 治療、処置の理解	講義	講師：荒木
5	脳・神経機能の障害と治療 疾患と治療 脳腫瘍	講義	講師：荒木
6	脳・神経機能の障害と治療 疾患と治療 (脊椎、末梢神経、筋、脱髄・変性疾患)	講義	講師：荒木
7	脳・神経機能の障害と治療 疾患と治療 感染・中毒・てんかん	講義	講師：荒木
8	脳・神経機能の障害と治療 疾患と治療 認知症	講義	講師：荒木
9	運動機能の障害と治療 主な症状と病態生理	講義	講師：加藤
10	運動機能の障害と治療 診断、検査と治療、処置	講義	講師：加藤
11	運動機能の障害と治療 診断、検査と治療、処置	講義	講師：加藤
12	運動機能の障害と治療 疾患の理解 (骨折、脱臼、神経の損傷)	講義	講師：藤林
13	運動機能の障害と治療 疾患の理解 (筋・腱・韌帯の損傷、骨・関節の炎症性疾患)	講義	講師：藤林
14	運動機能の障害と治療 疾患の理解 (骨腫瘍・軟部腫瘍)	講義	講師：藤林
15	運動機能の障害と治療 疾患の理解 (代謝性骨疾患、脊椎疾患)	講義	講師：藤林
16	試験	試験	

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座成人看護学 [7] 脳・神経 (医学書院)
系統看護学講座成人看護学 [10] 運動器 (医学書院)

■学習上の留意点

健康障害と治療 II

講師：闇目 美穂子、片岡 浩樹

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

- 呼吸機能の障害による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ
- 循環機能の障害による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	呼吸機能の障害と治療 呼吸器の構造と機能	講義	講師：闇目
2	呼吸機能の障害と治療 症状と病態生理	講義	講師：闇目
3	呼吸機能の障害と治療 検査と治療・処置（胸水検査・単純X線検査）	講義	講師：闇目
4	呼吸機能の障害と治療 検査と治療・処置（気管支鏡検査・CT）	講義	講師：闇目
5	呼吸機能の障害と治療 検査と治療・処置（呼吸機能検査・血液ガス分析）	講義	講師：闇目
6	呼吸機能の障害と治療 疾患の理解（感染症）	講義	講師：闇目
7	呼吸機能の障害と治療 疾患の理解（間質性肺炎）	講義	講師：闇目
8	呼吸機能の障害と治療 疾患の理解（気道の疾患、肺腫瘍）	講義	講師：闇目
9	循環機能の障害と治療 症状と病態生理	講義	講師：片岡
10	循環機能の障害と治療 主な疾患と治療、検査（心不全）	講義	講師：片岡
11	循環機能の障害と治療 主な疾患と治療、検査（虚血性心疾患）	講義	講師：片岡
12	循環機能の障害と治療 主な疾患と治療、検査（動脈・静脈疾患）	講義	講師：片岡
13	循環機能の障害と治療 主な疾患と治療、検査（弁膜症）	講義	講師：片岡
14	循環機能の障害と治療 主な疾患と治療、検査（不整脈）	講義	講師：片岡
15	循環機能の障害と治療 症例問題	講義	講師：片岡
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座成人看護学 [2] 呼吸器（医学書院）

系統看護学講座成人看護学 [3] 循環器（医学書院）

■学習上の留意点

健康障害と治療III

講師：平松 武幸、阪野 里花、
福島 庸晃

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年、授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 血液・造血機能の障害による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ
2. アレルギー及び膠原病による病状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ
3. 泌尿器及び腎機能の障害による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 泌尿器及び腎機能の障害と治療 1) 腎臓の構造・機能・尿の異常について	講義	講師：平松
2	1. 泌尿器及び腎機能の障害と治療 1) 電解質異常・酸塩基平衡・各種疾患	講義	講師：平松
3	1. 泌尿器及び腎機能の障害と治療 1) 腎機能検査の見方、考え方	講義	講師：平松
4	1. 泌尿器及び腎機能の障害と治療 1) 各種糸球体疾患について	講義	講師：平松
5	1. 泌尿器科及び腎機能の障害と治療 1) 主な症状と病態生理	講義	講師：阪野
6	1. 泌尿器科及び腎機能の障害と治療 1) 検査と診断 2) 疾病と治療	講義	講師：阪野
7	1. アレルギー及び膠原病の治療 1) アレルギー	講義	講師：福島
8	1. アレルギー及び膠原病の治療 1) 免疫 1	講義	講師：福島
9	1. アレルギー及び膠原病の治療 1) 免疫 2	講義	講師：福島
10	1. アレルギー及び膠原病の治療 1) 膠原病	講義	講師：福島
11	1. 血液・造血機能の障害と治療 1) 急性白血病	講義	講師：福島
12	1. 血液・造血機能の障害と治療 1) リンパ腫	講義	講師：福島
13	1. 血液・造血機能の障害 1) 復習	講義	講師：福島
14	1. 血液・造血機能の障害 1) 骨髄腫	講義	講師：福島
15	まとめ	講義	講師：福島
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 (医学書院)

系統看護学講座 成人看護学 [11] アレルギー・膠原病・感染症 (医学書院)

系統看護学講座 成人看護学 [4] 血液・造血器 (医学書院)

■学習上の留意点

健康障害と治療IV

講師：佐々木 洋治、福井 貴巳

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

■科目目標

1. 消化機能の障害による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ
2. 手術による身体への影響を学ぶ
3. 救急処置法を学ぶ

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	消化機能障害の検査と診断の流れ 1) 肝機能障害 2) 超音波検査 3) 内視鏡検査 4) 肝生検	講義	講師：佐々木
2	消化機能障害の病態生理と治療 1) 食道癌	講義	講師：佐々木
3	消化機能障害の病態生理と治療 2) 胃・十二指腸潰瘍、胃がん	講義	講師：佐々木
4	消化機能障害の病態生理と治療 3) 腸炎、イレウス、大腸癌	講義	講師：佐々木
5	消化機能障害の病態生理と治療 4) 肝炎、肝硬変、肝癌	講義	講師：佐々木
6	消化機能障害の病態生理と治療 5) 胆石、胆囊癌	講義	講師：佐々木
7	消化機能障害の病態生理と治療 6) 膀胱炎、膀胱癌	講義	講師：佐々木
8	手術・外科療法 1) 手術侵襲と生体反応	講義	講師：福井
9	手術・外科療法 1) 術後合併症とその予防①	講義	講師：福井
10	手術・外科療法 1) 術後合併症とその予防②	講義	講師：福井
11	手術・外科療法 1) 術後合併症とその予防③	講義	講師：福井
12	手術・外科療法 1) 炎症 2) 腫瘍	講義	講師：福井
13	手術・外科療法 1) 麻酔とは 2) 麻酔の種類 3) 手術前・中・後の管理 4) 気管内挿管	講義 演習	講師：福井
14	1. 救急医療 1) 救急処置法の実際 ・気道確保 ・人工呼吸 ・心臓マッサージ ・自動式体外除細動器 (AED)	講義 演習	講師：福井
15	1. 救急医療 1) 外科系疾患の救急処置 ・出血 ・外傷 ・痙攣 ・ショック	講義 演習	講師：福井
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 成人看護学 [5] 消化器 (医学書院)

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院)

■学習上の留意点

健康障害と治療V

講師：武石 宗一、小島 伸恭
川部 幹子、白木 精

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 内分泌・代謝機能の障害による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ
2. 感覚機能の障害による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	内分泌・代謝機能の障害と治療 ・糖尿病総論	講義	講師：武石
2	内分泌・代謝機能の障害と治療 ・糖尿病の病態	講義	講師：武石
3	内分泌・代謝機能の障害と治療 ・糖尿病合併症、食事、運動療法	講義	講師：武石
4	内分泌・代謝機能の障害と治療 ・糖尿病症例問題	講義	講師：武石
5	内分泌・代謝機能の障害と治療 ・糖尿病急性合併症・腎症	講義	講師：武石
6	内分泌・代謝機能の障害と治療 ・甲状腺疾患	講義	講師：武石
7	内分泌・代謝機能の障害と治療 ・甲状腺・内分泌疾患	講義	講師：武石
8	内分泌・代謝機能の障害と治療 ・ホルモン採血、甲状腺症例	講義	講師：武石
9	内分泌・代謝機能の障害と治療 ・糖尿病療養指導・甲状腺疾患	講義	講師：武石
10	感覚機能の障害と治療 ・皮膚の構造・発疹・搔痒・検査	講義	講師：小島
11	内分泌・代謝機能の障害と治療 ・湿疹・皮膚炎・皮膚がん・熱傷	講義	講師：小島
12	感覚機能の障害と治療 ・視覚障害（解剖・病態生理・治療）	講義	講師：川部
13	感覚機能の障害と治療 ・視覚器系	講義	講師：川部
14	感覚機能の障害と治療 ・聴覚・嗅覚器系①	講義	講師：白木
15	感覚機能の障害と治療 ・聴覚・嗅覚器系②	講義	講師：白木
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

- 系統看護学講座 成人看護学[6]内分泌・代謝（医学書院）
系統看護学講座 成人看護学[12]皮膚（医学書院）
系統看護学講座 成人看護学[13]眼（医学書院）
系統看護学講座 成人看護学[14]耳鼻咽喉（医学書院）

■学習上の留意点

健康障害と治療VI

講師：水野 輝子、尾崎 隆男

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

- 性のライフサイクルにおける主な健康障害と治療を学ぶ
- 女性のマタニティサイクルにおける正常な経過と主な健康障害と治療を学ぶ
- 小児期における主な健康障害と治療を学ぶ

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 思春期女性の健康障害 1) 月経前症候群 2) 月経困難症 3) 10代の妊娠中絶 4) 10代の性感染症 5) 10代の性暴力被害	講義	講師：水野
2	1. 成熟期女性の健康障害 1) 不妊 2) 望まない妊娠 3) 育児不安 4) 産後うつ病 5) 性暴力（DV） 6) 子宮内膜症・子宮筋腫	講義	講師：水野
3	1. 更年期女性の健康障害 1) 更年期障害（不定愁訴） 2) 乳癌、子宮癌、卵巣癌 2. 老年期女性の健康障害 1) 子宮下垂・子宮脱 2) 老人性腫瘍・外陰炎	講義	講師：水野
4	1. 妊娠の成立と妊娠経過	講義	講師：水野
5	1. 妊娠の健康障害と治療 1) 子宮外妊娠 2) ハイリスク妊娠 3) 妊娠期の感染症 4) 妊娠悪阻 5) 妊娠高血圧症候群 6) 血液型不適合妊娠 7) 多胎妊娠 8) 切迫流産・切迫早産	講義	講師：水野
6	1. 正常分娩の経過	講義	講師：水野
7	1. 分娩の健康障害と治療 1) 産道・娩出力・胎児の異常による分娩障害 2) 胎児の付属物の異常 3) 分娩時の損傷 4) 分娩直後の異常 5) 分娩時異常出血 6) 産科処置と産科手術	講義	講師：水野
8	1. 正常産褥の経過 2. 産褥の健康障害と治療 1) 子宮復古不全 2) 産褥期の発熱	講義	講師：水野
9	1. 小児感染症と予防接種	講義	講師：尾崎

10	1. 小児期における健康障害と治療 1) 先天異常 2) 新生児疾患	講義	講師：尾崎
11	1. 小児期における健康障害と治療 1) 呼吸器系 2) アレルギー疾患	講義	講師：尾崎
12	1. 小児期における健康障害と治療 1) 腎・泌尿器系 2) 神経系	講義	講師：尾崎
13	1. 小児期における健康障害と治療 1) 代謝・内分泌系 2) 消化器系	講義	講師：尾崎
14	1. 小児期における健康障害と治療 1) 血液系 2) 悪性新生物	講義	講師：尾崎
15	1. 小児期における健康障害と治療 1) 循環器系	講義	講師：尾崎
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 成人看護学 [9] 女性生殖器 (医学書院)

ナーシング・グラフィカ母性看護学 [1] 概論・リプロダクティブヘルスと看護 (メディカ出版)

ナーシング・グラフィカ母性看護学 [2] 母性看護の実践 (メディカ出版)

系統看護学講座 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 (メディカ出版)

■学習上の留意点

医療概論

講師：齊藤雅也

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 医学の動向をふまえて現代の医療の考え方、医療のシステムを学ぶ
2. 生命倫理・QOLの考え方を学ぶ

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	医学、医療とは 医学の定義、医学とアート	講義	
2	人間の生命を考える 生きることの質、生命と倫理	講義	
3	健康・病気・医学の体系 医学と健康 予防医学の重要性と実際	講義	
4	健康・病気・医学の体系 医療統計	講義	
5	わが国の医療システム 医療システム 医療関係職種とチーム医療	講義	
6	現代医療の問題 インフォームドコンセント 医療事故と患者の権利 情報開示と個人情報	講義	
7	医学と看護の生命へのアプローチ 近代医療における医学と看護 キュアからケアへ	講義	
8	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座別巻医学概論（医学書院）

■学習上の留意点

看護と法律

講師：白村 大勲

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 医療者としての知らなくてはならない関係法令を学び、専門職業人である看護師の責務が理解できる
2. 医療事故の事例を通して医療の安全確保の重要性と看護職の法的責任が理解できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 法の概念 1) 衛生法の意義・沿革・分類 2) 厚生行政のしくみ	講義	
2	1. 医療に関する法律① 1) 医事法規 ・保健師助産師看護師法 ・医師法・医療法 ・関係資格法	講義	
3	1. 医療に関する法律② 1) 医療を支える法 ・臓器の移植に関する法律	講義	
4	1. 薬に関する法律 1) 薬事法規 ・薬事法 ・薬剤師法 ・毒物及び劇薬取締法 ・大麻取締法、あへん法、覚せい剤取締法 ・安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律	講義	
5	1. 労働に関する法律 1) 労働関係法規 ・労働基準法 ・育児休業 ・介護休業など労働者の福祉に関する法律	講義	
6	1. 看護職と関係法規 1) 看護師等の人材確保に関する法律 2) 個人情報保護法 2. インフォームド・コンセントと医療情報の開示 1) ふえつづける医療訴訟 2) 法律の目から見た医療 3) インフォームド・コンセントの法理 4) 医療情報の開示と診療記録	講義	
7	1. 医療過誤・看護過誤と法的責任「事例検討」	GW	
8	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令 (医学書院)

■学習上の留意点

公衆衛生学 I

講師：田中 ひとみ

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

公衆衛生学は予防医学分野として医療に従事する者にとって、必要不可欠な知識である。公衆衛生学 I では、保健統計、疫学、感染症対策、生活衛生などについて、その意義を理解し、最新の現状・法規・国際的動向を学習する。歴史的背景を踏まえ、今後必要とされる新しい体制づくりとは何かを検討し、健康増進と疾病予防に役立つ知識を身につける。

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	テーマ：公衆衛生の概念 公衆衛生学の歴史、意義、健康概念と予防医学の考え方などについて講義する。地域活動や国際社会における公衆衛生の現状についても解説する。	講義	
2	テーマ：ヘルスプロモーションの考え方 健康とヘルスプロモーションとはなにか、その進め方について解説する。具体例を示し、今後の展開を検討するための基礎を示す。	講義	
3	テーマ：健康の指標 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上で的人口統計の意義、静態統計と動態統計、さらには健康水準を示す統計指標についてを講義する。動態統計の変遷（死因別死亡率など）、傷病統計、医療従事者統計などについて解説する。	講義	
4	テーマ：環境と公衆衛生 我が国の環境保全対策、地球環境汚染の現状について講義をする。また、これらを踏まえて現在、国内外においてどのような公衆衛生学的対策が求められているのかをグループにて討論し、学習内容をより身近に考える機会とする。	講義 GW	
5	テーマ：環境と公衆衛生 室内空気の環境と汚染、上水・下水の種類及び処理法、廃棄物処理問題の現状とその対策について講義する。また、地球環境問題の成因と生態系への影響、公害による健康被害とその防止対策などについて解説する。	講義	
6	テーマ：食と公衆衛生 食品の安全性、食品衛生管理、国民の栄養について講義する。健康維持と食品保健の考え方を解説する。	講義	
7	テーマ：感染症と予防 現代における感染症の特徴、感染症法における感染症とその分類について講義する。予防接種の意義と方法について解説する。	講義	
8	筆記試験		

■成績評価の方法

定期筆記試験において評価する。

■テキスト参考書など

わかりやすい公衆衛生（ヌーベルヒロカワ）
国民衛生の動向（財団法人厚生統計協会）

■学習上の留意点

医療系の国家資格試験において、公衆衛生学は必須問題である。医療従事者が共通して理解しておかなければならぬ知識であり、公衆衛生学に関する新聞やネットなどのニュースを常に意識する習慣を身につけ、国家試験取得後もその活躍に繋がる学習となることを期待する。

公衆衛生学Ⅱ

講師：江口 智美

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 健康づくりの基盤である地域保健・環境保健活動の実際を学ぶ
2. 保険医療福祉の連携の必要性を学ぶ
3. 人々の健康保持・増進に公衆衛生活動の1つである健康教育が重要であることを学ぶ

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 公衆衛生とは 1) 公衆衛生の定義 2) 公衆衛生の領域と活動の特徴 3) プライマリヘルスケア 4) ヘルスプロモーションの展開 5) 包括的保健医療 6) 国の責務 7) 国際的連携	講義	
2	1. 各行政の役割・機能 1) 保健行政（衛生行政）の基本的考え方 2) 保健行政の歴史的発展 3) 中央保健行政 4) 地域保健行政と保健所 5) 公衆衛生と環境計画 6) 公衆衛生と地域保健医療福祉計画	講義	
3	1. 公衆衛生と健康教育 1) 母子保健	講義	
4	1. 公衆衛生と健康教育 1) 難病・精神保健	講義	
5	1. 公衆衛生と健康教育 1) 学校保健・産業保健	講義	
6	1. 公衆衛生と健康教育 1) 生活習慣病	講義	
7	1. これから公衆衛生の課題 1) これからの保健・医療・福祉 2) がん時代の医療と看護 3) 地球温暖化	講義	レポート課題
8	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

わかりやすい公衆衛生学（ヌーベルヒロカワ）
国民衛生の動向（財団法人厚生統計協会）

■学習上の留意点

社会福祉

講師：千葉 忠道

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 生活問題・課題を抱える人の福祉ニーズを当事者視点から理解する
2. 看護師としての実践に応用できるような社会福祉及び社会保障の法制度・サービス等の知識を獲得する
3. ソーシャルワークの知識や社会福祉関係専門機関・専門職などの役割を理解する
4. 看護専門職として、保健・医療・福祉の多職種連携の実践ができるような力量を醸成する

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	福祉制度と福祉政策 1. 福祉制度・福祉政策の概念と理念、生活問題、福祉ニーズと資源	講義	
2	社会福祉の歴史 1. 西欧の歴史、日本の歴史、現代社会における生活問題・福祉課題、福祉政策、今後の社会福祉についての理解	講義	
3	社会福祉の法制度、組織と実施体制 1. 社会福祉、福祉六法、福祉行財政の理解 2. 社会福祉行政、社会福祉協議会、社会福祉法人等の組織・機関と専門職・従事者の役割の理解	講義	
4	社会保障① 1. 社会保障の概念や対象及び理念、社会保障の財源と費用、社会保障制度の体系、諸外国における社会保障制度の概要	講義	
5	社会保障② 1. 年金保険制度の具体的概要、医療保険制度の具体的概要、社会手当の具体的概要	講義	
6	社会保障③ 1. 雇用保険制度の具体的概要、労災保険制度の概要、主要な労働関係法規	講義	
7	低所得者支援と生活保護制度 1. 生活保護法の概要、保護の動向、低所得者対策、生活福祉資金、生活困窮者自立支援法の概要	講義	
8	高齢者支援と介護保険制度① 1. 高齢者福祉制度の発展過程、高齢者の生活実態と課題、高齢者虐待防止法、介護予防、介護保険法の概要①	講義	
9	高齢者支援と介護保険制度② 1. 介護保険法の概要②、介護保険サービスの種類、介護支援専門員等専門職の役割、連携の方法、地域包括支援センターの役割	講義	
10	障がい者支援と障害者総合支援法 1. 障害者の定義と実際、理念、制度の変遷の理解、障害者基本法、障害者総合支援法、精神保健福祉法、発達障害者支援法、障害者虐待防止法の理解	講義	
11	児童家庭福祉制度 1. 児童家庭福祉制度、児童福祉法、母子保健法、児童虐待防止法、DV防止法の理解 児童福祉施設、児童相談所などの役割を理解する	講義	
12	相談援助の理論と方法① 1. ソーシャルワークの理念、理論と方法、専門職の範囲、面接技術、ジェノグラム、エコマップ	講義	
13	相談援助の理論と方法② 1. ケアマネジメントの展開過程、集団を活用した支援 多職種連携、地域包括ケアシステム	講義 GW	

14	看護師国家試験過去問の解説 1. 看護師国家試験における社会福祉・社会保障関係過去問の解説	講義	
15	まとめ 本科目で履修した内容のまとめ	講義	
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔3〕社会保障・社会福祉（医学書院）

■学習上の留意点

- ①日常的に社会福祉に関する情報に关心を持ち、常に問題意識を持つこと
- ②随時最新の参考資料を配布するので、分類・整理・保存し、必ず復習すること
- ③積極的な自己学習と、受講に対する真摯な姿勢を望む

リハビリテーション論

講師：足立 勇

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. リハビリテーションの考え方を理解し、広義に捉えることができる
2. 基本的なリハビリテーション方法を学ぶとともにチーム医療での看護の役割が理解できる
3. 人がよりよく生きるために効果的で、継続したリハビリテーションの実際を学ぶ

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	<ol style="list-style-type: none">1. リハビリテーションの考え方<ol style="list-style-type: none">1) リハビリテーションの理念・目標2) リハビリテーションの対象とその理解3) リハビリテーション活動の過程4) リハビリテーションの種類と特徴5) リハビリテーションとバリアフリー2. リハビリテーションにおける各職種のかかわり<ol style="list-style-type: none">1) チームケアの必要性と利点2) リハビリテーションにおける各職種のかかわり3) チーム間の連携のあり方4) チームケアのプロセス3. リハビリテーションにおける評価<ol style="list-style-type: none">1) リハビリテーション医療における到達目標と評価2) 評価における看護師の役割3) 障害の評価	講義	
2	<ol style="list-style-type: none">1. リハビリテーションの実際<ol style="list-style-type: none">1) 作業療法について	講義	
3	<ol style="list-style-type: none">1. リハビリテーションの実際<ol style="list-style-type: none">1) 高次脳機能障害とADL	講義	
4	<ol style="list-style-type: none">1. リハビリテーションの実際<ol style="list-style-type: none">1) 理学療法について	講義	
5	<ol style="list-style-type: none">1. リハビリテーションの実際<ol style="list-style-type: none">1) 移乗動作2) 杖の合わせ方・使用方法	演習	
6	<ol style="list-style-type: none">1. リハビリテーションの実際<ol style="list-style-type: none">1) 言語療法について2) 言語障害・コミュニケーション障害のリハビリテーション	講義	
7	<ol style="list-style-type: none">1. リハビリテーションの実際<ol style="list-style-type: none">1) 摂食・嚥下障害のリハビリテーション①	講義 演習	
8	<ol style="list-style-type: none">1. リハビリテーションの実際<ol style="list-style-type: none">1) 摂食・嚥下障害のリハビリテーション②	講義 演習	
9	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

新体系 看護学全書 別巻 リハビリテーション看護 (メディカルフレンド社)

■学習上の留意点

基礎看護学概論

講師：渥美 美保、加藤 僚子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 看護実践の根拠となる理論を使って、「確かさのある看護」を日々探求できる
2. 看護の機能と役割を自覚し、看護の志を高める
3. 人間の尊厳に基づくケアの本質がわかり、患者・家族のニーズに応え看護を目指す
4. ナイチンゲールが看護師に求める資質を目指し、成長し続ける人になる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	看護とは何か ・看護のイメージ、看護への期待	講義	
2	看護とは何か ・クリティカルシンキングとリフレクション	講義	
3	看護の変遷 看護の基本的概念	講義	
4	看護の対象としての人間① ・人間とは ・人間の成長と発達 ・人間と環境 ・人間の欲求 ・患者の心理反応	講義	
5	看護の対象としての人間② ・健康とは ・生活とは	講義 GW	
6	看護の本質 ・ナイチンゲール「看護覚書」抄読会	GW	看護覚書 看護であること・看護でないこと改訳（現代社）
7	看護の対象としての人間③ ・生活とは	GW	ラベルワーク
8	看護理論① ・看護理論とは ニード論、人間関係論、ケアリングシステム	講義	ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」（日本看護協会出版会）
9	看護理論② ・ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」	GW	ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」（日本看護協会出版会）
10	看護倫理とは ・生命倫理と看護倫理 ・看護者の倫理綱領	講義	新版 看護者の基本的責務（日本看護協会出版会）
11	看護において倫理と価値 ・専門職の価値と個人の価値	講義	新版 看護者の基本的責務（日本看護協会出版会）
12	看護の本質 ・ナイチンゲール発表会	GW	講堂 看護覚書 看護であること・看護でないこと改訳（現代社）
13	看護の本質 ・ナイチンゲール発表会	GW	講堂 看護覚書 看護であること・看護でないこと改訳（現代社）
14	看護の実践場所の特徴と期待される役割 保健医療福祉活動におけるチーム活動と看護職の役割	講義	

15	まとめ ・看護とは ・これからの看護の課題と展望	講義	
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験、プレゼンテーション、レポートを総合的に評価

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ基礎看護学（1）看護学概論（メディカ出版）
看護観書 看護であること・看護でないこと改訳（現代社）
再新装版看護の基本となるもの（日本看護協会出版会）
新装看護者の基本的責務（日本看護協会出版会）

■学習上の留意点

看護における共通技術

講師：山下 千代美、小濱 美保、
加藤 僚子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 看護技術の基本と展開方法を学ぶ
2. 看護における安全・安楽の意義を理解し、必要な知識・技術を学ぶ
3. 看護に必要な感染予防についての必要な知識・技術を学ぶ
4. 人間関係を発展させるためのコミュニケーション技術の基本を学ぶ
5. プロセスレコードとリフレクションを通して自己のコミュニケーションの傾向と課題を知る
6. 看護における観察・記録・報告の必要性を学ぶ

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 看護における安全・安楽 1) 安全・安楽とは	講義	講師：山下
2	1. 看護における安全・安楽 1) 安全・安楽を確保するための援助	講義	各自、手指消毒剤を購入する 演習日までに、衛生的手洗い・スタンダードプリコーションの事前学習・練習をする 講師：山下
3	1. 感染予防の援助技術 1) 感染とは 2) 感染症と法律 3) 感染予防のための援助	講義	講師：小濱
4	1. 感染予防の援助技術 1) 衛生的手洗い① 2) スタンダードプリコーション①	演習	持ちもの：手袋、マスク、手指消毒剤、エプロン 講師：山下
5	1. 感染予防の援助技術 1) 衛生的手洗い② 2) スタンダードプリコーション②	演習	持ちもの：手袋、マスク、手指消毒剤、エプロン 演習日までに、滅菌手袋の装着・滅菌物の取り扱いについて事前学習をする 講師：山下
6	1. 滅菌手袋の装着① 2. 滅菌物の取り扱い①	演習	持ちもの：滅菌手袋3ヶ 講師：山下
7	1. 滅菌手袋の装着② 2. 滅菌物の取り扱い②	演習	持ちもの：滅菌手袋3ヶ 講師：山下
8	1. 人間関係を発展させる援助技術 1) コミュニケーションの基礎知識①	講義・演習	講師：加藤
9	1. 人間関係を発展させる援助技術 1) コミュニケーションの基礎知識②	講義・演習	講師：加藤
10	1. 人間関係を発展させる援助技術 1) コミュニケーションの振り返り① ・リフレクション、プロセスレコード	講義・演習	講師：加藤
11	1. 人間関係を発展させる援助技術 1) コミュニケーションの振り返り② ・アサーション、ロールプレイ	講義・演習	講師：加藤
12	1. 人間関係を発展させる援助技術 1) 偏愛マップを作ろう（話題のコツ）	講義・演習	講師：加藤
13	1. 観察・報告 1) ミスコミュニケーションと報告	講義・演習	講師：加藤
14	1. 看護と人権尊重	講義・演習	講師：加藤

15	実技試験（衛生的手洗い・スタンダードプリコーション）		
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験・課題(100%) 実技試験 (100%)

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（3）基礎看護技術（メディカ出版）
看護技術プラクティス（学研メディカル秀潤社）

■学習上の留意点

事前学習・課題等はノート（B5）を準備し、記載する
ノートは引き続き、科目：日常生活援助技術にて使用する

フィジカルアセスメント I

講師：渥美 美保、山下千代美、
丹羽恵里

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. ヘルスアセスメントの意義が理解できる
2. フィジカルアセスメントの知識・方法が理解できる
3. ケーススタディを通して、全身状態を把握するためのフィジカルアセスメントについて学ぶ

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	ヘルスアセスメントの意義と機能 フィジカルアセスメントとは何か	講義	
2	フィジカルアセスメントの基本原則 フィジカルアセスメントの基本技術	講義	
3	フィジカルアセスメントのすすめ方 フィジカルアセスメントモデル”フィジコ“の使い方	講義 演習	聴診器を持参すること
4	フィジカルアセスメント（流通機構） (息をする)	講義	
5	形態機能別フィジカルアセスメントの実際（流通機構・息をする）	演習	演習ガイドを参照 形態Tシャツ持参すること
6	形態機能別フィジカルアセスメントの実際（流通機構・息をする）	演習	
7	症状アセスメント	講義 GW	
8	フィジカルアセスメント（調節機構・動く）	講義	
9	フィジカルアセスメントの実際（調節機構）	演習	演習ガイドを参照
10	フィジカルアセスメントの実際（動く）	演習	演習ガイドを参照
11	フィジカルアセスメント（眠る・休息）	講義	
12	フィジカルアセスメント（食べる・トイレ）	講義	
13	フィジカルアセスメントの実際（食べる・トイレ）	演習	演習ガイドを参照
14	症状アセスメント	講義 GW	
15	症状アセスメント	GW	45分
16	筆記試験	試験	

■成績評価の方法

筆記試験・演習事前課題・レポートを総合的に評価

■テキスト参考書など

フィジカルアセスメントガイドブック（医学書院）
写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス（インターメディカ）

■学習上の留意点

フィジカルアセスメントⅡ

講師：丹羽 恵理

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 生体におけるバイタルサインの基礎的知識を理解し、対象者のバイタルサイン測定を実施する
2. 対象の体温調節に関するニーズをアセスメントし、体温を調節する方法を実践できる
3. 対象の呼吸に関するニーズをアセスメントし、呼吸を楽にする方法を実践する

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. バイタルサインとは 2. 体温・呼吸・脈拍・血圧・意識について① 1) 各調節機能のメカニズムと影響因子 2) 測定部位と測定時のポイントと援助の実際	講義 演習	秒針付き時計 聴診器
2	1. 体温・呼吸・脈拍・血圧・意識について② 1) 各調節機能のメカニズムと影響因子 2) 測定部位と測定時のポイントと援助の実際	講義 演習	秒針付き時計 聴診器
3	1. バイタルサインの測定の実際①	演習	秒針付き時計 聴診器
4	1. バイタルサインの測定の実際②	演習	秒針付き時計 聴診器
5	1. 呼吸困難のある対象の安楽な呼吸のための技術 1) 呼吸のニーズに関するフィジカルアセスメント (1) 問診 (2) 視診 (3) 聴診 2) 呼吸を楽にする方法 (1) 酸素吸入 (2) 吸引 (3) 吸入 (4) 安楽な呼吸の体位 2. 体温異常のある対象の体温を調節する技術 1) 体温調節に関するフィジカルアセスメント (1) 問診 (2) 視診 (3) 触診 2) 体温を調節する方法 (1) 温罨法 (2) 冷罨法	講義 演習	
6	1. 呼吸困難のある対象の安楽な呼吸のための技術の実際① 1) 酸素吸入 2) 吸引 3) 吸入 4) 安楽な呼吸の体位 2. 体温異常のある対象の体温を調節する技術の実際① 1) 温罨法 2) 冷罨法	講義 演習	
7	1. 呼吸困難のある対象の安楽な呼吸のための技術の実際② 1) 酸素吸入 2) 吸引 3) 吸入 4) 安楽な呼吸の体位 2. 体温異常のある対象の体温を調節する技術の実際② 1) 温罨法 2) 冷罨法	講義 演習	
8	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験・課題・演習内容・実技試験（バイタルサインの測定）を総合的に評価

■テキスト参考書など

フィジカルアセスメントガイドブック（医学書院）
ナーシング・グラフィカ基礎看護学（3）基礎看護技術（メディカ出版）
写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス（インターメディカ）

■学習上の留意点

日常生活援助技術 I

講師：天野 果奈、丹羽 恵理

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

- 日常生活行動（動く・生活環境）の制限が対象に与える影響を理解することができる
- 対象に応じた援助を科学的根拠に基づいて実践できる
- 実践（演習）の結果を評価し、学習を主体的に深めていくことができる
- 看護師としての態度を習得できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	「動く」の援助 1. 日常生活における活動・休息の必要性 2. 活動制限が健康生活に及ぼす影響 3. 看護援助におけるボディメカニクスの活用	講義	
2	4. 安楽な休息・睡眠のための援助 1) 主な姿勢と安楽な体位 2) 睡眠障害時の基本的な援助	講義 演習	
3	5. 活動制限がある対象への援助 <技術演習> 臥床患者の体位変換	演習	
4	5. 活動制限がある対象への援助 <技術演習> 臥床患者の移乗・移送	演習	
5	5. 活動制限がある対象への援助 <技術演習> 臥床患者の移乗・移送	演習	
6	「生活環境を整える」援助 1. 環境の意義 2. 生活環境を整える援助技術 1) 快適さを保つ構造 2) 病室環境と病床環境 3) 生活環境を調整する援助 <技術演習> 環境測定	講義 演習	
7	「生活環境を整える」援助 1. 環境の意義 2. 生活環境を整える援助技術 1) 快適さを保つ構造 2) 病室環境と病床環境 3) 生活環境を調整する援助 <技術演習> ベッドメイキング（デモンストレーション）	講義 演習	
8	「生活環境を整える」援助 1. 環境の意義 2. 生活環境を整える援助技術 1) 快適さを保つ構造 2) 病室環境と病床環境 3) 生活環境を調整する援助 <技術演習> ベッドメイキング	講義 演習	

9	「生活環境を整える」援助 1. 環境の意義 2. 生活環境を整える援助技術 1) 快適さを保つ構造 2) 病室環境と病床環境 3) 生活環境を調整する援助 <技術演習> ベッドメイキング	講義 演習	
10	「生活環境を整える」援助 1. 環境の意義 2. 生活環境を整える援助技術 1) 快適さを保つ構造 2) 病室環境と病床環境 3) 生活環境を調整する援助 <技術演習> 環境調整	演習	
11	「生活環境を整える」援助 1. 環境の意義 2. 生活環境を整える援助技術 1) 快適さを保つ構造 2) 病室環境と病床環境 3) 生活環境を調整する援助 <技術演習> 環境調整	演習	
12	「生活環境を整える」援助 1. 環境の意義 2. 生活環境を整える援助技術 1) 快適さを保つ構造 2) 病室環境と病床環境 3) 生活環境を調整する援助 <技術演習> ベッドメイキング・臥床患者のシーツ交換	演習	
13	「生活環境を整える」援助 1. 環境の意義 2. 生活環境を整える援助技術 1) 快適さを保つ構造 2) 病室環境と病床環境 3) 生活環境を調整する援助 <技術演習> ベッドメイキング・臥床患者のシーツ交換	演習	
14	「生活環境を整える」援助 1. 環境の意義 2. 生活環境を整える援助技術 1) 快適さを保つ構造 2) 病室環境と病床環境 3) 生活環境を調整する援助 <技術演習> ベッドメイキング・臥床患者のシーツ交換	演習	
15	実技試験		
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験・レポート (100%) 、実技試験 (100%)
筆記試験、実技試験のそれぞれが60%以上で合格とする

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ基礎看護学 (3) 基礎看護技術 (メディカ出版)
看護技術プラクティス (学研メディカル秀潤社)

■学習上の留意点

筆記試験、実技試験のそれぞれが60%以上に満たない場合は、それぞれに再試験を行う
筆記試験、レポート評価の再試験は100%で評価

日常生活援助技術Ⅱ

講師：天野 果奈、川口 志帆

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

- 日常生活行動（食べる・トイレに行く）の制限が対象に与える影響を理解することができる
- 対象に応じた援助を科学的根拠に基づいて実践できる
- 実践（演習）の結果を評価し、学習を主体的に深めていくことができる
- 看護師としての態度を習得できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	「食べる」の援助 1. 食べる援助の目的・意義 2. 食行動に影響を及ぼす因子 3. 栄養状態のアセスメント	講義	
2	4. 食べるための援助技術 <技術演習> 臥床患者の食事援助技術	演習	
3	4. 食べるための援助技術 <技術演習> 臥床患者の食事援助技術	演習	
4	「トイレに行く」の援助 1. トイレに行く援助の目的・意義 2. 排泄のニーズのアセスメント 3. 排泄障害の種類 1) 排泄行動を阻害する因子 2) 自然排泄を阻害する因子	講義	
5	4. 排泄するための援助方法 1) 自然排尿を促す援助 <技術演習> 便器・尿器の挿入	演習	
6	4. 排泄するための援助方法 1) 自然排尿を促す援助 <技術演習> 便器・尿器の挿入	演習	
7	4. 排泄するための援助方法 1) 自然排尿を促す援助 <技術演習> おむつ交換 陰部洗浄	演習	
8	4. 排泄するための援助方法 1) 自然排尿を促す援助 <技術演習> おむつ交換 陰部洗浄	演習	
9	4. 排泄するための援助方法 1) 自然排尿を促す援助 <技術演習> おむつ交換 陰部洗浄	演習	

10	4. 排泄するための援助方法 1) 自然排尿を促す援助 <技術演習> おむつ交換 陰部洗浄	演習	
11	4. 排泄するための援助方法 2) 膀胱内留置カテーテル・一時的導尿 <技術演習> モデル人形での導尿	演習	
12	4. 排泄するための援助方法 2) 膀胱内留置カテーテル・一時的導尿 <技術演習> モデル人形での導尿	演習	
13	4. 排泄するための援助方法 3) 浣腸・高压浣腸 <技術演習> モデル人形での浣腸	演習	
14	4. 排泄するための援助方法 3) 浣腸・高压浣腸 <技術演習> モデル人形での浣腸	演習	
15	筆記試験		
16	実技試験 おむつ交換		

■成績評価の方法

筆記試験・技術試験・課題学習・演習後のリフレクションを総合的に評価

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ基礎看護学（3）基礎看護技術（メディカ出版）
看護技術プラクティス（学研メディカル秀潤社）

■学習上の留意点

日常生活援助技術III

講師：伊藤 精子、萱野 明子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

- 日常生活行動（清潔・身だしなみ）の制限が対象に与える影響を理解することができる
- 日常生活行動への援助を科学的根拠に基づいて考えることができる
- 実践（演習）の結果を評価し、学習を主体的に深めることができる
- 看護師としての態度を習得できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 清潔・身だしなみの援助の目的 2. 清潔・身だしなみのニーズのアセスメント 1) ニーズと阻害する因子	講義	
2	3. 身だしなみの援助技術 1) 寝衣交換 2) 洗髪 3) 爪切り	講義	
3	寝衣交換（病衣）①	演習	授業3、4は続き
4	寝衣交換（病衣）②	演習	授業3、4は続き
5	4. 皮膚・粘膜の生理的メカニズムとケア 1) 入浴と生体反応 2) マッサージと生体反応 3) 清拭洗浄剤と皮膚の反応 5. 援助方法の選択	講義	
6	6. 清潔援助に必要な物品・準備	演習	
7	全身清拭（病衣）①	演習	授業7、8は続き
8	全身清拭（病衣）②	演習	授業7、8は続き
9	全身清拭（病衣）③	演習	授業9、10は続き
10	全身清拭（病衣）④	演習	授業9、10は続き
11	部分浴・爪切り①	演習	授業11、12は続き
12	部分浴・爪切り②	演習	授業11、12は続き
13	洗髪①	演習	授業13、14は続き
14	洗髪②	演習	授業13、14は続き
15	筆記テスト		
16	実技試験 寝衣交換		

■成績評価の方法

筆記試験・レポート100%、実技試験100%

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ基礎看護学(3)基礎看護技術（メディカ出版）
看護技術プラクティス（学研メディカル秀潤社）

■学習上の留意点

診療補助技術

講師：天野 果奈

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 検査における看護者の役割と責任が理解できる
2. 薬物療法における看護師の役割・法的責任が理解できる
3. 安全・安楽な与薬に伴う援助技術を身につける

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	検査・処置に伴う援助技術 1. 検査の意義 2. 検査における看護者の役割 1) 検査の説明 2) 苦痛の軽減 3) 危険の察知と対処 3. 検体採取と取り扱い	講義	
2	与薬に伴う援助技術 1. 薬物療法の意義と基礎知識 2. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 1) 経口及びその他の方法による与薬 2) 注射の用法と医療廃棄物	講義 演習	
3	2. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 1) 経口及びその他の方法による与薬 2) 注射の用法と医療廃棄物 (1) 皮下注射 (2) 皮内注射 (3) 筋肉内注射 3) 注射法の援助の実際 ・モデル人形での筋肉内注射	演習	
4	2. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 1) 経口及びその他の方法による与薬 2) 注射の用法と医療廃棄物 (1) 皮下注射 (2) 皮内注射 (3) 筋肉内注射 3) 注射法の援助の実際 ・モデル人形での筋肉内注射	演習	
5	2. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 1) 経口及びその他の方法による与薬 2) 注射の用法と医療廃棄物 (4) 静脈内注射（点滴静脈内注射を含む） 3) 注射法の援助の実際	講義 演習	
6	2. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 1) 経口及びその他の方法による与薬 2) 注射の用法と医療廃棄物 (4) 静脈内注射（点滴静脈内注射を含む） 3) 注射法の援助の実際 ・採血	演習	
7	2. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 1) 経口及びその他の方法による与薬 2) 注射の用法と医療廃棄物 (4) 静脈内注射（点滴静脈内注射を含む） 3) 注射法の援助の実際 ・採血	演習	
8	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験80%、レポート・課題評価20%

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ基礎看護学（3）基礎看護学技術（メディカ出版）
看護技術プラクティス（学研メディカル秀潤社）

■学習上の留意点

看護過程

講師：木下 美奈子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 科学的思考、問題解決型思考をもとに看護の思考を理解する
2. 看護理論と看護過程の関係を理解する
3. 看護過程の思考を活用し、事例患者の看護を考える

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	看護過程とは 看護過程と理論の関係	講義	成人看護学概論と共に 行う理論のグループ学習
2	看護過程の基盤となる考え方	講義	
3	事例・記録用紙配布、フェイスシート・病態について	講義 個人ワーク	事例や記録物を閉じる 2つ穴のファイルを持参する
4	アセスメント アセスメントの枠組み（ゴードンの機能的健康パターン）と看護診断	講義	アセスメントに活用できる文献を探して おくこと
5	事例のデータベース	講義 個人ワーク	テキスト以外の文献も参考にする データベースを自己にて進めておく
6	事例のデータベース	個人ワーク	授業後データベース提出（ファイルに閉じたまま）
7	看護に有用な概念・理論	GW	成人看護学概論との 合同授業①
8	看護に有用な概念・理論	発表	成人看護学概論との 合同授業②
9	事例患者の全体像・課題の抽出	講義	
10	事例患者の全体像・課題の抽出	個人ワーク	
11	看護目標と看護計画	講義	
12	看護目標と看護計画	個人ワーク	
13	看護目標と看護計画	GW	
14	経過記録	講義	
15	事例患者の援助	GW	
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験・課題・グループワーク・発表内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（3）基礎看護技術
ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断

■学習上の留意点

基礎臨床看護論

講師：渥美 美保、天野果奈

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

- 既習の知識を想起し、模擬患者に応じた日常生活援助が実践できる
- 看護過程に沿った看護の展開が理解できる
- 自己を振り返り、今後の課題が明確にできる
- 看護師としての態度を習得できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	授業ガイダンス	講義	
2	事例患者の看護過程 1) 事例患者のアセスメント① ・データベース	GW	
3	事例患者の看護過程 1) 事例患者のアセスメント② ・データベース	個人指導	
4	事例患者の看護過程 1) 事例患者のアセスメント③ ・データベース ・関連図	講義	
5	事例患者の看護過程 2) 健康上の課題の抽出 3) 看護計画立案	GW 個別指導	
6	事例患者の看護の実際 1) 演習タイムスケジュール作成① 2) 看護計画に沿った技術練習	GW	
7	事例患者の看護の実際 3) 看護計画の実施・評価①	演習	
8	事例患者の看護の実際 3) 看護計画の実施・評価②	演習	
9	事例患者の看護の実際 3) 看護計画の実施・評価③	演習	
10	事例患者の看護過程① 4) 経過記録 5) 看護計画の評価・修正	GW 個別指導	
11	事例患者の看護の実際 1) 演習タイムスケジュール作成②	GW	
12	事例患者の看護の実際 4) 看護計画の実施・評価④	演習	
13	事例患者の看護の実際 4) 看護計画の実施・評価⑤	演習	
14	事例患者の看護過程② 4) 経過記録 5) 看護計画の評価・修正	GW 個人指導	
15	面接 記録の修正	GW 個人指導	

■成績評価の方法

実施記録・演習内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

■学習上の留意点

指導技術

講師：渥美 美保、丹羽 恵理

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 看護における教育的役割を学ぶ
2. 指導の対象と領域、指導プロセスを学ぶ
3. 効果的な指導方法を理解する
4. 指導技術を体験発表することで、患者教育・健康教育の要点を理解する

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	・看護における教育的役割 ・指導における学習理論 1) 社会的認知理論 2) 計画的行動理論	講義	
2	・指導の対象領域、教育指導プロセス 1) 対象者 2) 指導の場 3) 指導方法 4) 指導プロセス	講義	
3	・模擬患者の指導計画の立案① 1) 指導内容の把握	講義 演習	
4	・模擬患者の指導計画の立案② 1) 指導内容の優先度の把握 2) 指導計画書の作成 3) 指導教材の種類	講義 演習	
5	・指導技術の実際① 1) 模擬患者の指導場面の実施	演習 発表	
6	・指導技術の実際② 1) 模擬患者の指導場面の実施	演習 発表	
7	・集団指導ガイダンス 1) 集団指導におけるプロセス	講義	集団指導グループ
8	・指導内容と方法 1) 指導内容と優先度の把握 2) 指導方法	講義 GW	
9	・指導技術の実際 ・集団指導演習 1) 日常生活援助技術（排泄）①	GW	
10	・集団指導演習 1) 日常生活援助技術（排泄）②	GW	
11	・集団指導の実際 1) 個人・集団へのアプローチ 2) 基本的な集団技法	GW	
12	・集団指導演習 1) 日常生活援助技術（排泄）③	GW	
13	・集団指導演習 1) 日常生活援助技術（排泄）④	GW	
14	・集団指導の評価方法 2) 指導案の評価・修正	GW 個人ワーク	
15	・指導の在り方と指導技術の再構築	GW	

■成績評価の方法

評価表に基づき、提出物、演習参加状況、直接的指導場面、他者評価、自己評価から総合的に評価する

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ基礎看護学（3）基礎看護技術（メディカ出版）

■学習上の留意点

ノート使用する

（赤色インデックスは個人指導、青色インデックスは集団指導と区別する）
個人指導・集団指導とも、指導計画を自己で立案する

看護研究 I

講師：石崎 敦子

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 看護研究の目的と意義が理解できる
2. よりよい看護を実践していくための看護研究の進め方が分かり、探究心が持てる
3. 研究計画書を作成できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 看護研究とは 2. 看護研究の進め方	講義	
2	3. 研究テーマの決め方 4. 文献検討 5. 看護研究の倫理的配慮	講義 GW	
3	6. 研究デザインと種類 1) 量的研究 2) 質的研究	講義 GW	
4	7. 研究計画の立案	講義	
5	8. 論文クリティイーク	GW	
6	9. 研究計画書の作成	講義	
7	10. 研究計画の発表 (プレゼンテーション)	演習	
8	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験30% 演習・レポート70%

■テキスト参考書など

黒田裕子の看護研究 Step by Step 第5版 (医学書院)

■学習上の留意点

看護研究Ⅱ

講師：萱野 明子

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 事例研究の実際例をクリティックすることができる
2. 事例研究を通して研究的態度を身につける

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 事例研究の進め方が理解できる 1) 研究計画書の作成 2) 科学的な視点でクリティックする	講義	
2	1. 体験した実習から事例をまとめる 1) テーマと目的 2) はじめに 3) 事例紹介 4) 考察 5) 結論	個人ワーク	
3	1. 体験した実習から事例をまとめる 1) テーマと目的 2) はじめに 3) 事例紹介 4) 考察 5) 結論	個人ワーク GW	
4	1. 体験した実習から事例をまとめる 1) テーマと目的 2) はじめに 3) 事例紹介 4) 考察 5) 結論	個人ワーク GW	
5	1. 体験した実習から事例をまとめる 1) テーマと目的 2) はじめに 3) 事例紹介 4) 考察 5) 結論	個人ワーク	
6	1. 体験した実習から事例をまとめる 1) テーマと目的 2) はじめに 3) 事例紹介 4) 考察 5) 結論	個人ワーク GW	
7	1. 体験した実習から事例をまとめる 1) テーマと目的 2) はじめに 3) 事例紹介 4) 考察 5) 結論	個人ワーク	
8	1. 体験した実習から事例をまとめる 1) テーマと目的 2) はじめに 3) 事例紹介 4) 考察 5) 結論		45分

■成績評価の方法

総合的に評価

■テキスト参考書など

わかりやすいケーススタディの進め方（照林社）

■学習上の留意点

成人看護学概論

講師：山下 千代美、丹羽 恵理

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 成人期の発達段階・発達課題を理解し、成人としての自己の役割を明確にできる
2. 社会の現状と特徴から、成人期の対象が抱える課題を明らかにする
3. 健康レベルを理解し、看護に有用な概念を使って、健康レベルに応じた看護を探究できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	<ol style="list-style-type: none">1. 看護学の構成概念と成人看護の構成2. 成人看護学と他の看護学との関連<ol style="list-style-type: none">1) 「成長発達」の軸2) 「健康レベル」の軸3) 「個と集団」の軸4) 「身体と精神」の軸3. 成人の役割<ol style="list-style-type: none">1) 家族における役割2) 社会生活における役割	講義	
2	<ol style="list-style-type: none">1. 生涯発達の特徴2. 成人期の発達段階・発達課題<ol style="list-style-type: none">1) 青年期の特徴（身体・心理・社会的）2) 壮年期の特徴（身体・心理・社会的）3) 中年期・高齢期の特徴（身体・心理・社会的）	講義 GW	
3	<ol style="list-style-type: none">1. 成人の生活習慣と健康2. 成人が抱える問題	講義	国民衛生の動向
4	<ol style="list-style-type: none">1. 成人の生活と健康（N.O.1）<ol style="list-style-type: none">1) 成人の動向2) 成人を取り巻く環境	GW	国民衛生の動向 老年看護学概論との 合同授業①
5	<ol style="list-style-type: none">1. 成人期に病を抱えるとは	講義 GW	
6	<ol style="list-style-type: none">1. 健康レベルのとらえ方<ol style="list-style-type: none">1) 健康の維持・増進2) 健康生活の急激な破綻3) 障害をもぢながらの生活とリハビリテーション4) 健康生活の慢性的な揺らぎ5) 人生最期のとき	講義	
7	<ol style="list-style-type: none">1. 看護に有用な概念・理論	GW	看護過程との合同授業①
8	<ol style="list-style-type: none">1. 看護に有用な概念・理論	発表	看護過程との合同授業②
9	<ol style="list-style-type: none">1. 健康生活をはぐくむ看護（健康の維持・増進）<ol style="list-style-type: none">1) ストレス理論	講義	
10	<ol style="list-style-type: none">1. 健康生活の急激な破綻を支える看護<ol style="list-style-type: none">1) 危機モデル2) セルフケア理論	講義	
11	<ol style="list-style-type: none">1. 障害をもぢながらの生活とリハビリテーションを促す看護<ol style="list-style-type: none">1) 障害の受容過程2) 適応モデル	講義	
12	<ol style="list-style-type: none">1. 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護①<ol style="list-style-type: none">1) 病みの軌跡理論2) 自己効力理論	講義	
13	<ol style="list-style-type: none">1. 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護②<ol style="list-style-type: none">1) 病みの軌跡理論2) 自己効力理論2. 人生最期のときを支える看護	講義	

14	1. 成人の生活と健康 (NO. 2)	個人ワーク	老年看護学概論との 合同授業②
15	1. 成人の生活と健康 (NO. 2)	発表	老年看護学概論との 合同授業③
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験・課題・GW・発表内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論 (医学書院)
国民衛生の動向 (財団法人厚生統計協会)

■学習上の留意点

成人看護学援助論 I

講師：山下 千代美、金井香子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 障害をもちらながら生活する人の特徴と看護の役割が理解できる
2. 障害をもちらながら生活する人を理解し、患者・家族を支援する看護を考えることができる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 障害をもちらながら生活する患者とは 2. 障害をもちらながら生活する患者を支援する看護とは	講義 GW	
2	1. 運動器系に障害をもつ患者の特徴 2. 運動器系に障害をもつ患者の看護	講義 GW	
3	1. 事例：人工骨頭置換術を受ける患者の看護① 1) 患者を捉える	GW	
4	1. 事例：人工骨頭置換術を受ける患者の看護② 1) 情報の関連性・課題の抽出をする	GW	
5	1. 事例：人工骨頭置換術を受ける患者の看護③ 1) 看護を考える	講義 GW	
6	1. 事例：人工骨頭置換術を受ける患者の看護④ 1) 看護を考える	講義 GW	
7	1. 事例：人工骨頭置換術を受ける患者の看護⑤ 1) 看護を考える	講義 GW	
8	1. 事例：人工骨頭置換術を受ける患者の看護⑥ 1) 看護を考える（退院支援）	講義 GW	
9	1. 事例：関節リウマチを抱える患者の看護	講義 GW	
10	1. 保存療法を受ける患者の看護	講義 演習	
11	1. 脳神経系に障害をもつ患者の看護 1) 脳神経系障害をもつ患者の特徴 2) 医療の動向と看護の役割	講義	
12	1. 脳神経系に障害をもつ患者の看護 1) 脳神経系障害の観察とアセスメント	講義	
13	1. 脳神経系に障害をもつ患者の看護 1) 脳出血患者の看護	講義	
14	1. 脳神経系に障害をもつ患者の看護 1) くも膜下出血の患者の看護	講義	
15	1. 脳神経系に障害をもつ患者の看護 1) 脳腫瘍患者の看護	講義	
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験・事例展開（課題）を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学 成人看護学 [7] 脳・神経（医学書院）

系統看護学 成人看護学 [10] 運動器（医学書院）

■学習上の留意点

成人看護学援助論Ⅱ

講師：山下 千代美、渥美 美保

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 健康生活の急激な破綻をきたした人の特徴と看護の役割が理解できる
2. 健康生活の急激な破綻をきたした人を理解し、回復に向けた看護を考えることができる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 健康危機状況にある患者の特徴と看護 1) 危機的状況とは	講義	
2	1. 循環器系に障害をもつ患者の看護 1) 心筋梗塞の病態	講義	
3	1. 循環器系に障害をもつ患者の看護 1) 心筋梗塞患者のアセスメント	講義	
4	1. 循環器系の症状をもつ患者の看護 1) 症状アセスメント 2) 看護援助	講義	
5	1. 循環器系に障害をもつ患者の看護 1) 心筋梗塞の患者の看護 2) 心不全の患者の看護 3) 検査・治療時の看護	講義	
6	1. 循環器系に障害をもつ患者の看護 1) 弁膜症の患者の看護 2) 大動脈解離の患者の看護	講義	
7	1. 循環器系に障害をもつ患者の看護 1) 不整脈の患者の看護 2) 心電図のモニタリング	講義	
8	1. 健康危機状況にある患者の回復に向けた看護 1) 手術療法を受ける患者とは 2) 手術前・手術中の患者の看護	講義	
9	1. 手術療法を受ける患者の看護 1) 手術後に起こりやすい合併症と看護	講義 GW	
10	1. 手術療法を受ける患者の看護 1) 手術後に起こりやすい合併症と看護	GW 講義	
11	1. 手術療法を受ける患者の看護 1) 手術療法を受ける患者の回復に向けた看護の実際を考える①	GW	
12	1. 手術療法を受ける患者の看護 1) 手術療法を受ける患者の回復に向けた看護の実際を考える②	GW	
13	1. 手術療法を受ける患者の看護 1) 手術療法を受ける患者の回復に向けた看護の実際を考える②	GW	
14	1. 手術療法を受ける患者の看護 1) 脊髄クモ膜下麻酔（脊椎麻酔）を受ける患者の看護 2) 内視鏡下手術を受ける患者の看護	講義	
15	1. 手術療法を受ける患者の看護 1) 高齢者に起こりやすい術後合併症と看護	講義	
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験・課題・演習内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 成人看護学〔3〕循環器（医学書院）
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（医学書院）
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論（医学書院）
よくわかる周手術期看護（学研）

■学習上の留意点

成人看護学援助論III

講師：丹羽 恵理、斎木 真美、
櫻井みどり

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を必要としている人の特徴と看護の役割が理解できる
2. 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を必要としている人を理解し、セルフマネジメント支援を考えることができる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. セルフマネジメントとは 1) セルフマネジメント支援を必要とする患者の特徴 2) セルフマネジメント支援に必要な主要概念	講義	講師：丹羽恵里
2	1. セルフマネジメントとは 1) 承認体験	GW	講師：丹羽恵里 45分
3	1. 内分泌・代謝系に障害をもつ患者の看護 1) 糖尿病とは	講義	講師：斎木
4	1. 内分泌・代謝系に障害をもつ患者の看護 1) 食事療法と看護	講義	講師：斎木
5	1. 内分泌・代謝系に障害をもつ患者の看護 1) 薬物療法と看護 2) 心理面への援助	講義	講師：斎木
6	1. 内分泌・代謝系に障害をもつ患者の看護 1) 血糖測定 2) インスリン注射	演習	講師：斎木
7	1. 内分泌・代謝系に障害をもつ患者の看護 1) 糖尿病患者の看護：事例検討	講義	講師：斎木
8	1. 内分泌・代謝系に障害をもつ患者の看護 1) 糖尿病患者の運動療法 2) フットケア	講義	講師：斎木
9	1. 内分泌・代謝系に障害をもつ患者の看護 1) 糖尿病患者の運動療法 2) フットケア	演習	講師：斎木
10	1. 腎・泌尿器系に障害をもつ患者の看護 1) 慢性腎不全とは 2) 慢性腎不全ステージに合わせた看護	講義	講師：桜井
11	1. 腎・泌尿器系に障害をもつ患者の看護 1) 慢性腎不全患者のアセスメント	講義	講師：桜井
12	1. 腎・泌尿器系に障害をもつ患者の看護 1) 血液透析を受ける患者の看護 ・導入からエンド・オブ・ライフまで	講義	講師：桜井
13	1. 腎・泌尿器系に障害をもつ患者の看護 1) 腹膜透析を受ける患者の看護 2) 社会資源	講義	講師：桜井
14	1. 腎・泌尿器系に障害をもつ患者の看護 1) 症状に対する看護	講義	講師：桜井
15	1. 腎・泌尿器系に障害をもつ患者の看護 1) 尿路変更患者の看護（腎・膀胱・前立腺）	講義	講師：桜井
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 (医学書院)

系統看護学講座 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 (医学書院)

■学習上の留意点

成人看護学援助論IV

講師：祖父江 正代、高倉 梢
丹羽 あゆみ、川口 志帆

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 人生最期のときを過ごす人の特徴と看護の役割が理解できる
2. 人生最期のときを過ごす人を理解し、患者がよりよく生きるために看護を考えることができる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 呼吸器系に障害をもつ患者の看護 1) 呼吸器症状がある患者の看護①	講義	講師：丹羽
2	1. 呼吸器系に障害をもつ患者の看護 1) 呼吸器症状がある患者の看護②	講義	講師：丹羽
3	1. 呼吸器系に障害をもつ患者の看護 1) 気管支喘息の患者の看護	講義	講師：丹羽
4	1. 呼吸器系に障害をもつ患者の看護 1) 酸素療法を受ける患者の看護	講義	講師：丹羽
5	1. 呼吸器系に障害をもつ患者の看護 1) 肺がんの患者の看護	講義	講師：丹羽
6	1. 消化器系に障害をもつ患者の看護 1) 胆のうがんの患者の看護 2) 検査・処置時の看護	講義	講師：川口
7	1. 消化器系に障害をもつ患者の看護 1) 胃がんの患者の看護 2) 内視鏡治療を受ける患者の看護 3) 化学療法を受ける患者の看護	講義	講師：川口
8	1. 消化器系に障害をもつ患者の看護 1) 潰瘍性大腸炎の患者の看護	講義	講師：川口
9	1. 消化器系に障害をもつ患者の看護 1) 肝炎の患者の看護 2) 肝硬変の患者の看護	講義	講師：川口
10	1. 消化器系に障害をもつ患者の看護 1) 臨死期の看護 2) グリーフケア	講義	講師：川口
11	1. 人生最期のときを過ごす人への看護 1) 人生最期のときを過ごす人の特徴と看護の役割	講義	講師：祖父江
12	1. 人生最期のときを過ごす人への看護 1) 症状マネジメントと看護	講義	講師：高倉
13	1. 人生最期のときを過ごす人への看護 1) 緩和ケアと看護①	講義	講師：高倉
14	1. 人生最期のときを過ごす人への看護 1) 緩和ケアと看護②	講義	講師：高倉
15	1. 人生最期のときを過ごす人への看護 1) 終末期の看護 ・患者の喪失体験を考える	講義	講師：高倉
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験80%・「症状アセスメントと緩和ケア」グループワークの参加度とレポート20%

■テキスト参考書など

系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論 (医学書院)

系統看護学講座 成人看護学 [5] 消化器 (医学書院)

系統看護学講座 成人看護学 [2] 呼吸器 (医学書院)

■学習上の留意点

成人臨床看護論

講師：山下 千代美、丹羽 真美

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

- 既習の知識を想起し、健康レベルに応じた看護が理解できる
- 対象の症状・状態に関するニーズをアセスメントし適切な援助方法を学ぶ
- 対象の状況に応じた援助が安全安楽に実施できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 成人期事例患者の看護の実際 1) 術後の環境を知る	GW	
2	1. 成人期事例患者の看護の実際 1) 手術後の患者の看護① ・創のある患者の看護（創管理、ドレーン管理） ・輸液療法を受ける患者の看護	演習	
3	1. 成人期事例患者の看護の実際 1) 手術後の患者の看護② ・創のある患者の看護（創管理、ドレーン管理） ・輸液療法を受ける患者の看護	演習	次回の演習までの課題：術直後の看護（フィジカルアセスメント）を実施できるように考える
4	1. 成人期事例患者の看護の実際 1) 術直後の看護（フィジカルアセスメント）① 2) 事例に応じたフィジカルアセスメントを検討①	演習 発表	各グループ、ベッド・患者役を準備する
5	1. 成人期事例患者の看護の実際 1) 術直後の看護（フィジカルアセスメント）② 2) 事例に応じたフィジカルアセスメントを検討②	演習 発表	各グループ、ベッド・患者役を準備する 次回の演習までの課題：術後1日目の看護（清潔援助・更衣を実施し、術後の離床を促す）を実施できるように考える
6	1. 成人期事例患者の看護の実際 1) 術後1日目の看護（清潔援助・更衣・離床方法）①	演習	各グループ、ベッド・患者役を準備する
7	1. 成人期事例患者の看護の実際 1) 術後1日目の看護（清潔援助・更衣・離床方法）②	演習	各グループ、ベッド・患者役を準備する
8	1. 成人期事例患者の看護の実際 1) 術後1日目の看護（清潔援助・更衣・離床方法）③	演習	各グループ、ベッド・患者役を準備する
9	1. 成人期事例患者の看護の実際 1) 事例に応じた清潔援助・更衣・離床方法を検討	発表	
10	1. 治療・処置を受ける患者の看護 1) 輸血療法を受ける患者の看護①	講義	
11	1. 治療・処置を受ける患者の看護 1) 輸血療法を受ける患者の看護②	講義 演習	
12	1. 治療・処置を受ける患者の看護 1) 化学療法を受ける患者の看護	講義 GW	
13	1. 治療・処置を受ける患者の看護 1) 放射線療法を受ける患者の看護	講義	
14	1. 手術を受ける患者の看護① 1) 術前・術後体験（呼吸機能訓練） 2) コルセット体験 3) ストマ管理	演習	

15	1. 手術を受ける患者の看護② 1) 術前・術後体験（呼吸機能訓練） 2) コルセット体験 3) ストマ管理	演習	
----	---	----	--

■成績評価の方法

演習レポート・演習内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 成人看護学〔5〕 消化器（医学書院）

よくわかる周手術期看護（学研）

看護技術プラクティス（学研メディカル秀潤社）

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論（医学書院）

■学習上の留意点

老年看護学概論

講師：加藤 僅子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 老年期の発達課題が理解できる
2. 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる
3. 老年看護の機能と役割が理解できる
4. 超高齢社会の現状と特徴を知り、課題を考えることができる
5. 高齢者における倫理的な課題を知り、高齢者の尊厳を支える看護が理解できる
6. 高齢者の健康を支えるための保健医療福祉の活動と看護の役割が理解できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	老年期とは 1) 老年看護学の概念と構成 2) 老年期にある高齢者の理解：発達段階・発達課題	講義 GW	老年の生活と健康 NO 1 の説明
2	老年の生活と健康 NO 1 1) 老年の動向 2) 老年を取り巻く環境	GW	成人看護学概論との 合同授業① 場所：講堂 国民衛生の動向 担当項目のプレゼン の準備
3	老年の生活と健康 1) 老年の抱える問題 2) 健康的な生活を送る高齢者 3) 地域包括ケアシステム	講義	国民衛生の動向
4	高齢者の体と健康 老化とからだ ・老化とは ・健康な高齢者と要介護高齢者 ・老年症候群と老年病①	講義 GW	
5	高齢者の体と健康 老化とからだ ・老年症候群と老年病② ・高齢者体験ガイダンス	GW	
6	高齢者のからだと健康 老化とからだ ・老年症候群と老年病③	GW	
7	高齢者体験	演習	講堂
8	高齢者体験	演習	講堂
9	高齢者のからだと健康 老化とこころ	講義 GW	
10	高齢者のからだと健康 老化とこころ ・回想法	GW	
11	高齢者と倫理 ・高齢者の権利擁護 ・身体拘束と虐待 ・成年後見制度	講義	
12	高齢者と倫理 ・認知症と倫理	GW	認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン（厚生労働省平成30年6月） ダウンロードして持参

13	老年の生活と健康 No. 2	個人ワーク	成人看護学概論との 合同授業②
14	老年の生活と健康 No. 2	個人ワーク	発表 成人看護学概論との 合同授業②
15	老年の生活と健康 No. 2	まとめ	成人看護学概論との 合同授業② 半コマ
16	筆記試験		

■成績評価の方法

パフォーマンス課題（成人看護学概論と合同評価） 20 %
GW課題と筆記テストの総合評価 80 %

■テキスト参考書など

系統看護学講座老年看護学（医学書院）
系統看護学講座老年看護病態・疾患論（医学書院）
国民衛生の動向（財団法人厚生統計協会）

■学習上の留意点

老年看護学援助論 I

講師：加藤 僚子、伊藤 精子、
奥山 美佐恵

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 加齢による生理的変化を踏まえ、高齢者の日常生活の特徴を考えることができる
2. 生活機能の観点から高齢者の健康上の課題をアセスメントし、看護の方法を考えることができる
3. 加齢に伴う身体機能の低下や健康障害を踏まえて、高齢者の安全・安楽・自立を考慮した生活援助技術を習得する
4. 個々のライフスタイルを持つ高齢者の実像が理解できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 老年看護とは 2. 高齢者に「自立」と健康 3. 高齢者にとって「うごく」を支える看護①	講義	
2	1. 高齢者にとって「うごく」を支える看護②	講義	
3	1. 高齢者にとって「やすむ・ねむる」を支える看護	講義	
4	1. 高齢者にとって「はなす」を支える看護	講義	
5	1. 高齢者にとって「はなす」を支える看護	講義	
6	1. 高齢者にとって「食べる」を支える看護	講義	
7	1. 高齢者にとって「食べる」を支える看護② 1) 義歯の洗浄と臥床患者の口腔ケア	演習	実習室
8	1. 高齢者にとって「トイレにいく」とは①	講義	講師：奥山
9	1. 高齢者にとって「トイレにいく」とは②	演習	講師：奥山 実習室
10	1. 高齢者にとって「お風呂に入る」を支える看護	講義	
11	1. 高齢者にとって「食べる」を支える看護④ 1) 経管栄養	演習	実習室
12	1. 高齢者にとって「食べる」を支える看護④ 1) 経管栄養、胃ろう	演習	実習室
13	1. 高齢者の生活機能を高める看護：事例学習	GW	
14	1. 高齢者の生活機能を高める看護：事例学習	GW	半コマ
15	1. 高齢者の生活機能を支える看護：まとめ	講義	
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験・GWの内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座老年看護学（医学書院）
系統看護学講座老年看護病態・疾患論（医学書院）

■学習上の留意点

老年看護学援助論Ⅱ

講師：天野 果奈、奥山 美佐恵
加藤 僚子、栗田 みゆき

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 高齢者の疾病や障害の特徴を知り、健康障害が心身に及ぼす影響が理解できる
2. 健康上の課題を解決するための看護の要点が理解できる
3. 二次障害を予防するための技術を習得する
4. 治療・処置を受ける高齢者に対する基本的な援助方法が理解できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	高齢者にとって自立とは 寝たきり予防の看護	講義	
2	転倒の予防と看護① 骨粗鬆症と骨折の看護	講義	
3	転倒の予防と看護② 骨粗鬆症と骨折の看護	講義	
4	自立を促す援助技術① ・移動動作、移乗動作 ・歩行介助に必要な自助具	演習	実習室
5	自立を促す援助技術① ・移動動作、移乗動作 ・歩行介助に必要な自助具	演習	実習室
6	自立を促す援助①まとめ 自立を促す援助②遊びりーション	講義 GW	
7	脱水予防と看護	講義	
8	検査・手術を受ける高齢者の看護 ・せん妄予防と看護	GW	
9	褥瘡の予防と看護①	講義	講師：奥山
10	褥瘡の予防と看護②	講義	講師：奥山
11	自立を促す援助② 遊びりーション	GW	
12	自立を促す看護② ・遊びりーション	GW	半コマ
13	入院する高齢者への看護 ・地域包括ケアシステムと退院調整・退院支援	講義	講師：栗田
14	自立を促す看護② ・遊びりーション	発表	講堂
15	自立を促す看護② ・遊びりーション	GW	発表・講堂
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験・演習内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座老年看護学（医学書院）
系統看護学講座老年看護病態・疾患論（医学書院）

■学習上の留意点

老年看護学援助論III

講師：加藤 僅子

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 人生最期の時を過ごす高齢者と家族への看護が理解できる
2. 健康障害を持った高齢者の看護が理解できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	人生最期の時を過ごす高齢者の看護（意思決定支援） ・エンド・オブ・ライフケア ・アドバンスケアプランニング	講義	
2	人生最期の時を過ごす高齢者の看護（意思決定支援） ・事例学習	GW	
3	老年看護過程 「認知症とは」	講義	
4	老年看護過程 「看護のアセスメントと実際、関連図」	GW	
5	老年看護過程 「看護計画」	GW	
6	老年看護過程 「うごく」「はなす」	GW	発表
7	老年看護過程 「食べる」「トイレにいく」「お風呂に入る」	GW	発表
8	まとめ	講義	半コマ

■成績評価の方法

レポート、看護過程を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座老年看護学（医学書院）
系統看護学講座老年看護病態・疾患論（医学書院）

■学習上の留意点

小児看護学概論

講師：渥美 美保、石崎 敦子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 小児看護の対象の特性を学び、「小児観」「家族観」を深める
2. 子どもと家族のおかれた現状、子どもを取り巻く社会が与える影響に关心を持ち続ける
3. 子どもの成長発達を理解し、日常生活習慣獲得への支援方法を学ぶ
4. 子供の権利を守り、自己決定を支える看護を探究できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 子どもとは 1) 子ども観の変遷 2) 小児期の区分 3) フィールド観察	講義	
2	2. 子どもの各期の特徴 3. 小児看護の特徴と目的	講義	
3	4. 子どもをとりまく環境 1) 子どもを取り巻く環境問題を考える (ワールドカフェ)	GW	
4	5. 子どもの倫理的問題 1) 事例から学ぶ 値値と対立	講義	
5	6. 子どもを取り巻く社会① 1) 子どもを取り巻く社会問題を考える (ディベート準備)	講義 GW	
6	6. 子どもを取り巻く社会② 1) 小児をめぐる法律と施策 (母子保健・学校保健・予防接種・虐待防止・貧困対策)	講義	
7	7. 子どもの成長と発達① 1) 成長・発達とは 2) 成長・発達の進み方、影響因子 3) 形態的・機能的・精神的発達	講義	
8	7. 子どもの成長と発達② 1) 事例から学ぶ成長発達の評価 2) 子どもにとっての栄養	講義	母子手帳
9	8. 日常生活習慣獲得への援助 1) 食事 2) 排泄 3) 睡眠(休息) 4) 清潔・更衣 5) 活動(遊び・学習・生活リズム)	講義	
10	9. 子どもと遊び 1) 子どもの成長・発達に遊びがもたらす影響 2) 発達段階による遊びの特徴と種類	講義 GW	
11	10. 生命倫理と子どもの権利① (ディベート発表)	演習	
12	10. 生命倫理と子どもの権利② (ディベート発表)	演習	
13	11. 子どもの傷害と事故	講義	
14	12. 子どもの貧困① (グループ発表)	演習	

15	12. 子どもの貧困② (グループ発表)	演習	
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験・課題レポート・演習内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論小児臨床看護総論(医学書院)
国民衛星の動向 (財団法人厚生統計協会)

■学習上の留意点

プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して主体的に学びを深める

小児看護学援助論 I

講師：石崎 敦子

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 健康障害が小児の成長・発達に与える影響を学ぶ
2. 健康障害が小児の家族に与える影響を学ぶ
3. 健康障害をもつ小児を家族の看護を学び、小児の生活や治療過程を支える看護を考える

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 健康障害に対する子どもの反応 1) 疾病・障害に対する子どもの受け止め 2) 子どもの疾病・障害に対する家族の受け止め、理解 3) 子どもや家族の療養上のストレス、負担	講義	
2	2. 子どもの健康障害と看護① 1) 子どもの治療、健康管理に関わる看護 2) 子どもの日常生活に関わる看護	講義	
3	2. 子どもの健康障害と看護② 1) 子どもの成長発達にあわせた説明 (1) プレパレーションとは (2) プレパレーションの方法（計画）	講義 GW	
4	4. 外来における子どもと家族の看護 1) 小児外来における看護の役割 2) 外来を受診する子どもと家族の特徴と看護	講義	
5	5. 入院中の子どもと家族の看護① 1) 入院が子どもと家族に及ぼす影響 2) 子どもの生活を支える入院環境 (1) 安全 (2) 成長発達を促す (3) 成長発達段階に合わせた入院環境を考える	講義	
6	5. 入院中の子どもと家族の看護② 3) 入院生活の適応と治療過程を支える看護 (1) 日常生活、遊びや学習への支援 (2) 症状による苦痛不安への支援 (3) 治療や処置、検査に伴う苦痛に対する支援 (4) 家族への支援	講義 GW	
7	6. 小児看護援助論 II とのコラボレーション授業 プレパレーション計画発表	演習	
8	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験・課題・演習内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）
写真でわかる小児看護技術アドバンス（インターメディカ）

■学習上の留意点

小児看護学援助論Ⅱ

講師：上田 みづほ、安藤 都子、
伊藤 悅代

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 健康障害をもつ小児の主な症状の特徴
2. 健康障害の経過の特徴と小児・家族の看護が理解できる
3. 健康障害をもち、特殊な状況にある小児の看護を学ぶ

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 小児に見られる主な症状と看護 1) 小児のアセスメントの視点 (1) 子どものフィジカルアセスメントとバイタルサイン	講義	
2	2. 急性期にある小児と家族の看護① 1) 発熱・けいれん	講義	
3	2. 急性期にある小児と家族の看護② 2) 嘔吐・下痢・脱水 3. 小児の輸液管理の基礎知識	講義	
4	4. 手術・検査・処置を受ける小児と家族の理解と看護① 1) 発達段階に合わせたプレパレーション (ロールプレイ) グループ発表 (小児看護学援助論Ⅰとのコラボレーション演習)	演習	
5	4. 手術・検査・処置を受ける小児と家族の理解と看護② 1) 発達段階に合わせたプリパレーション (ロールプレイ) グループ発表 (小児看護学援助論Ⅰとのコラボレーション演習)	演習	
6	5. 救急処置を要する小児と家族の看護 1) 救急処置を必要とする小児の看護① (BLS 小児の視野体験)	演習	
7	5. 救急処置を要する小児と家族の看護 1) 救急処置を必要とする小児の看護② (BLS 小児の視野体験)	演習	
8	6. 被虐待が疑われる小児と家族の看護	講義	
9	7. 健康障害のある小児と家族の看護の実際を考える① 事例「川崎病を発症した患児」	講義	
10	7. 健康障害のある小児と家族の看護の実際を考える② 事例「川崎病を発症した患児」発表	講義	
11	8. 治療を受ける子どもの看護 1) 輸液管理・薬剤の濃度調節・点滴固定	講義	
12	9. 慢性期における小児の特徴と家族	講義	
13	10. 家庭における初期対応指導と家族看護	講義	
14	11. 小児の入院が家族に及ぼす影響 ロールプレイ	演習	
15	12. 低出生体重児の看護 (保育器・インファンショーマー)	講義	
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験80% 課題レポート10% 演習後のリフレクション10%

■テキスト参考書など

系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論小児臨床看護総論(医学書院)
系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論(医学書院)

■学習上の留意点

小児看護学援助論III

講師：石崎 敦子

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 健康障害をもつ小児・家族の看護を理解し、生じやすい課題と看護を考える視点を身につける。
2. 小児の看護に必要な看護技術を安全に実践できる。

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	小児看護に必要な基本的技術 (1) コミュニケーション 事例説明 (川崎病患児の慢性期) 演習ガイド	講義 個人ワーク	
2	小児看護に必要な基本的技術 (2) 輸液管理 (シーネ固定・滴下の調節) 薬剤の濃度計算	演習	小児看護学援助論II との コラボレーション
3	小児看護に必要な基本的技術 (3) 身体計測・清潔援助 (臀部浴)	演習	
4	小児看護に必要な基本的技術 (4) 新生児の更衣とオムツ交換	演習	
5	小児看護に必要な基本的技術 (5) 与薬・検査時の体位の固定①	演習	
6	小児看護に必要な基本的技術 (5) 与薬・検査時の体位の固定②	演習	
7	健康障害をもつ小児・家族のアセスメント (事例展開) ①	講義 個人ワーク	
8	健康障害をもつ小児・家族のアセスメント (事例展開) ②		

■成績評価の方法

講義や演習前の調べ学習・演習後のリフレクション内容をループリック評価する

■テキスト参考書など

系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)

系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論(医学書院)

写真でわかる小児看護技術アドバンス(インターメディカ)

■学習上の留意点

ループリック評価を参照し自己学習に取り組んだうえで講義に臨む

母性看護学概論

講師：梶野 葉子、坂本 昌子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 母性看護の基盤となる概念について学び、看護の目的・対象が理解できる。
2. 女性のライフサイクルにおける特徴および発達課題・健康上の課題が理解できる。
3. 女性を取り巻く環境、法律、統計と動向から母性看護の現状が理解できる。
4. 性と生殖における倫理的な課題を考えることができる。

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 母性看護の基盤となる概念 1) 母性とは	講義	講師：坂本
2	1. 母性看護の基盤となる概念 2) 母性看護とは 3) ヘルスプロモーション	講義	講師：坂本
3	1. 母性看護の基本となる概念 4) リプロダクティブヘルス／ライフ	講義	講師：坂本
4	1. 母性看護の基本となる概念 5) セクシャリティとジェンダー	講義	講師：坂本
5	1. 母性看護における倫理・法律・施策 1) 母子保健統計	講義	講師：坂本
6	2. 母性看護における倫理・法律・施策 2) 母性看護における倫理	講義	講師：坂本
7	2. 母性看護における倫理・法律・施策 3) 母性看護に関する法律 4) 子育て支援に関する施策	講義	講師：坂本
8	3. ドメスティックアセスメント	講義 GW	講師：坂本
9	4. 母性看護の対象 1) 生殖に関する生理	講義	講師：梶野
10	4. 母性看護の対象 2) 生殖における健康問題と看護（思春期）	講義	講師：梶野
11	4. 母性看護の対象 3) 生殖における健康問題と看護（成熟期）	講義	講師：梶野
12	4. 母性看護の対象 3) 生殖における健康問題と看護（成熟期）	講義	講師：梶野
13	4. 母性看護の対象 4) 不妊症	講義	講師：梶野
14	4. 母性看護の対象 4) 不妊症	講義	講師：梶野
15	4. 母性看護の対象 5) 加齢とホルモンの変化（更年期・老年期）	講義	講師：梶野
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ母性看護学（1）概論・リプロダクティブヘルスと看護（メディカ出版）

ナーシング・グラフィカ母性看護学（2）母性看護の実践（メディカ出版）

国民衛生の動向（財団法人厚生統計協会）

■学習上の留意点

母性看護学援助論 I

講師：坂本 昌子

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 妊娠・分娩期の母体と胎児の生理的変化の特徴が理解できる。
2. マタニティライフを健康に過ごすための援助が理解できる。
3. 分娩各期における援助が理解できる。
4. 妊娠・分娩期における健康上の課題と看護を考えることができる。

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	正常な妊娠経過にある妊婦の看護 1) 妊婦の生理 2) 看護師の役割	講義	
2	妊婦と胎児のリスクとその看護 1) 妊婦と胎児のアセスメント 正常な妊娠経過にある妊婦の看護 2) 出産を控えた妊婦と家族の心理・社会的变化と看護	講義	
3	妊婦と胎児のリスクとその看護 1) 妊婦と胎児のアセスメント 正常な妊娠経過にある妊婦の看護 1) 出産を控えた妊婦と家族の心理・社会的变化と看護	講義	
4	正常な妊娠経過にある妊婦の看護 1) 妊娠期の健康維持のためのセルフマネジメント 2) 出産と子育ての準備のための看護	講義	
5	正常な妊娠経過にある妊婦の看護 1) 妊娠期の健康維持のためのセルフマネジメント 2) 出産と子育ての準備のための看護	講義	
6	産婦・胎児のリスクとその看護 1) 産婦と胎児のアセスメント（リスク） 2) 産婦のニーズと看護	講義	
7	産婦・胎児のリスクとその看護 1) 産婦と胎児のアセスメント（リスク） 2) 産婦のニーズと看護	講義	
8	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

- ナーシング・グラフィカ母性看護学（1）概論・リプロダクティブヘルスと看護（メディカ出版）
ナーシング・グラフィカ母性看護学（2）母性看護の実践（メディカ出版）
ナーシング・グラフィカ母性看護学（3）母性看護技術（メディカ出版）

■学習上の留意点

母性看護学援助論Ⅱ

講師：勝田 絵美、坂本 昌子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 産褥期および新生児期の母子の生理的変化と特徴が理解できる。
2. 新生児看護の原則と基本的な援助が理解できる。
3. 産褥・新生児期における健康上の課題と看護を考えることができる。

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 正常な産褥経過にある婦婦の理解 1) 婦婦の身体的変化 2) 婦婦と家族の心理・社会的変化	講義	講師：勝田
2	1. 正常な産褥経過にある婦婦の理解 1) 婦婦のアセスメント 2. 婦婦が産褥経過を健康に過ごすための支援 1) 婦婦の日常生活とセルフケアを支える看護	講義	講師：勝田
3	1. 婦婦が産褥経過を健康に過ごすための支援 1) 産褥体操指導と実施	演習	講師：勝田
4	1. 正常な産褥経過にある婦婦の理解 1) 乳房・乳頭の構造、乳汁分泌のしくみ 2) 進行性変化の観察	講義	講師：勝田
5	1. 正常な経過にある新生児の理解と看護 1) 新生児の生理	講義	講師：坂本
6	1. 婦婦が産褥経過を健康に過ごすための支援 1) 進行性変化に対する援助	講義	講師：勝田
7	1. 正常な経過にある新生児の理解と看護 1) 新生児看護の意義と原則	講義	講師：坂本
8	1. 正常な経過にある新生児の理解と看護 1) 新生児の抱っこ、授乳姿勢、効果的な吸着	講義 演習	講師：勝田
9	1. 正常な経過にある新生児の理解と看護 1) 胎外生活適応への援助	講義	講師：坂本
10	1. 正常な産褥経過から逸脱した婦婦の看護 1) 帝王切開術後の看護	講義	講師：勝田
11	1. 正常な経過にある新生児の理解と看護 1) 退院までの経過観察と看護	講義	講師：坂本
12	1. 正常な経過にある新生児の理解と看護 1) 新生児の基本的援助	講義	講師：坂本
13	1. 婦婦が産褥経過を健康に過ごすための支援 1) 婦婦の事例展開	講義	講師：勝田
14	1. 新生児の健康問題と看護	講義	講師：坂本
15	まとめ	講義	講師：坂本
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験 60%、課題レポート 40%

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ母性看護学（1）概論・リプロダクティブヘルスと看護（メディカ出版）

ナーシング・グラフィカ母性看護学（2）母性看護の実践（メディカ出版）

ナーシング・グラフィカ母性看護学（3）母性看護技術（メディカ出版）

■学習上の留意点

母性看護学援助論III

講師：坂本 昌子

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護に必要な基本的な技術を安全に実践できる
2. 褥婦の健康上の課題と看護を探究する

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 褥婦の看護過程 1) データーベース、アセスメント	講義	
2	1. 褥婦の看護過程 2) 看護計画の立案	講義	
3	2. 新生児の看護① 1) 沐浴	演習	
4	2. 新生児の看護② 1) 沐浴	演習	
5	3. 正常な産褥経過をたどる褥婦の看護① 1) 妊婦計測 4. 新生児の看護① 1) 新生児のバイタルサイン 2) 調乳 3) 沐浴	演習	
6	3. 正常な産褥経過をたどる褥婦の看護② 1) 妊婦計測 4. 新生児の看護② 1) 新生児のバイタルサイン 2) 調乳 3) 沐浴	演習	
7	5. 褥婦の看護過程 6. 新生児のアセスメント	講義	
8	実技試験		

■成績評価の方法

実技試験（沐浴）100%・演習内容を総合的に評価 100%

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ母性看護学（1）概論・リプロダクティブヘルスと看護（メディカ出版）
ナーシング・グラフィカ母性看護学（2）母性看護の実践（メディカ出版）

■学習上の留意点

精神看護学概論

講師：伊藤 要、萱野 明子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. こころの健康とは何かについて考える
2. こころの健康を理解し、ストレスと対処方法および危機介入について考える
3. 精神保健医療の沿革・歴史、現在の社会情勢やニーズを理解する
4. こころの健康障害をもつ人とのかかわりの特徴を理解する
5. 対象の権利擁護と倫理的問題について考える

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. こころの健康 1) こころのケアと現在社会 2) 精神障害とは	講義	萱野
2	1. 精神保健上の問題と社会的背景	講義 GW	萱野
3	1. 健康障害のとらえ方 2. 発達段階と発達課題	講義 GW	萱野
4	1. 社会的背景と対策	GW 発表	萱野
5	1. 精神保健における危機の特徴	講義	萱野
6	1. 精神保健の歴史と当事者 2. 当事者の気持ち	講義	伊藤
7	1. 精神障害と歴史	講義	伊藤
8	1. 精神障害と法制度	講義	伊藤
9	1. 障害者と社会 2. 精神看護の人権・倫理と法律	講義	伊藤
10	1. 日本の精神保健福祉 2. 障がい者の生活と退院支援	講義	伊藤
11	生きづらさについて考える	DVD視聴	11回12回でDVD視聴 萱野
12	生きづらさについて考える	DVD視聴	11回12回でDVD視聴 萱野
13	1. 障害とともに生活する 2. 生活する人の支援を考える	講義	萱野
14	1. 援助における人間関係 1) ケアの原則 2) 患者一看護師関係の発展過程 3) プロセスレコードの活用	講義 GW	萱野
15	1. 援助における人間関係 1) ケアの原則 2) 患者一看護師関係の発展過程 3) プロセスレコードの活用	講義	45分 萱野
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験 60%、課題レポート 40%

■テキスト参考書など

系統看護学講座 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 (医学書院)
系統看護学講座 精神看護学 [2] 精神看護の展開 (医学書院)

■学習上の留意点

精神看護学方法論

講師：高木 友徳、萱野 明子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. こころの健康障害をもつ人の特徴と精神看護師の役割が理解できる
2. おもな精神障害に対する治療と検査について理解できる
3. 向精神薬の有害反応とその観察方法がわかり、治療に対する患者の思いを考える
4. こころの健康障害をもつ人の援助方法の基本がわかり、一人ひとりを尊重した看護を考える

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. こころの健康とは 2. 防衛機制	講義	高木
2	1. こころの健康とは 2. 防衛機制	講義	高木
3	1. 統合失調症の症状と治療① 1) 思考の障害 2) 感情の障害 3) 意欲の障害 4) 知覚の障害	講義	高木
4	1. 統合失調症の症状と治療 1) 思考の障害 2) 感情の障害 3) 意欲の障害 4) 知覚の障害 2. おもな精神科の治療 1) 薬物療法 2) 精神療法	講義	高木
5	1. 気分障害の症状と治療	講義	高木
6	1. 気分障害の症状と治療	講義	高木
7	1. 不安障害、発達障害の症状と治療	講義	高木
8	1. 不安障害、発達障害の症状と治療	講義	高木
9	1. 入院治療と看護 1) 入院治療の目的 2) 治療的環境を守る 3) 安全を守る	講義	
10	1. 入院治療と看護 1) 入院治療の目的 2) 治療的環境を守る 3) 安全を守る	講義	
11	1. 対象の理解 1) 対人関係技術	講義 演習	
12	1. その人らしく生活するための看護 2. セルフケアを高める援助	講義	
13	1. その人らしく生活するための看護 2. セルフケアを高める援助	講義	
14	1. こころの健康障害の回復過程	講義	
15	1. 精神看護師の役割	講義	45分
16	筆記試験		

■成績評価の方法

総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 (医学書院)

系統看護学講座 精神看護学 [2] 精神看護の展開 (医学書院)

精神看護学 学生一患者のストーリーで綴る実習展開

■学習上の留意点

精神看護学援助論 I

講師：伊藤 博吉、館 わかな

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 症状にともなう患者の反応を理解し、看護を考える
2. 看護師のメンタルヘルスを理解し、自己のメンタルヘルスについて考える

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. ケアの人間関係 1) コミュニケーションスキル、観察、プロセスレコード	講義	
2	1. 薬物療法と看護、身体合併症ケア	講義	
3	1. 精神障害の病態理解と整理	講義	
4	1. 統合失調症患者の看護 1) 幻覚・妄想状態にある人の看護	講義	
5	1. 気分障害のある患者の看護 1) 抑うつ状態にある患者の看護 2) 自殺企図	講義	
6	1. 精神科救急治療 1) 緊急事態に対処する	講義	
7	1. 精神科領域における医療安全管理 1) KYT (危険予知トレーニング) 2) 転倒・転落	講義	
8	1. 精神科領域における医療安全管理 1) KYT (危険予知トレーニング) 2) 転倒・転落	GW	
9	1. リエゾン精神看護	講義	
10	1. 看護師のメンタルヘルス 1) 感情労働	講義	
11	1. 行動制限最小化について	講義	
12	1. 身体拘束と看護	演習	
13	1. 事例をもとにロールプレイ	GW	
14	1. 事例をもとにロールプレイ	GW	
15	1. CVPPP (包括的暴力防止プログラム)	講義 演習	
16	筆記試験		

■成績評価の方法

総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 (医学書院)

系統看護学講座 精神看護学 [2] 精神看護の展開 (医学書院)

■学習上の留意点

精神看護学援助論Ⅱ

講師：萱野 明子

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. こころの健康障害をもつ人がより良く生きるための看護を探究する
2. こころの健康障害をもつひとの思い・支援を考えることができる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 事例を用いて看護の実際を考える 1) 情報の理解 2) 成長発達 3) 妄想が日常生活行動に与える影響	講義	
2	1. 事例を用いて看護の実際を考える 1) 情報の理解 2) 成長発達 3) 妄想が日常生活行動に与える影響	個人ワーク	
3	1. 事例を用いて看護の実際を考える 1) アセスメント	講義 GW	
4	1. 事例を用いて看護の実際を考える 1) アセスメント 2) セルフケアおよび人間関係における日常生活上の課題	講義 個ワーク	
5	1. 事例を用いて看護の実際を考える 1) こころの健康障害をもつ人の思い 2) こころの健康障害をもつ人の家族の思い	GW	
6	1. 事例を用いて看護の実際を考える 1) 対象のもつている力をいかした支援	講義	
7	1. こころの健康障害をもつ患者の看護	講義	45分
8	筆記試験		

■成績評価の方法

総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 (医学書院)

系統看護学講座 精神看護学 [2] 精神看護の展開 (医学書院)

精神看護学 学生一患者のストーリーで綴る実習展開 (医歯薬出版)

■学習上の留意点

在宅看護論概論

講師：伊藤 精子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 現在の社会状況を踏まえ、在宅看護の意義と必要性が理解できる
2. 在宅ケアにおける看護の役割を学び、訪問看護の特徴が理解できる
3. 在宅看護を必要とする対象を理解し、在宅療養者とその家族に対する支援を探求する

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 在宅看護の概念 1) 在宅看護とは	講義	DVD『いのちと生活を看護する訪問看護ステーション』視聴
2	2) 日本の在宅看護の歴史と現状 3) 訪問看護の基本理念と倫理	講義	
3	2. 在宅ケアと在宅看護 1) 在宅ケアとは 2) 在宅ケアにおける看護の役割 3) 在宅看護の役割・機能	講義	
4	3. 在宅療養者と家族の支援 1) 在宅看護の対象 2) 在宅療養の成立要件 3) 在宅療養者への看護活動	講義	
5	4) 在宅看護と家族 ・家族とは ・家族の介護力のアセスメント	講義	
6	・家族関係の調整 ・家族介護者の健康	講義	
7	3. 在宅療養者と家族の支援 5) 在宅療養者と家族への看護活動 ・自己決定への支援	講義	DVD『僕のいた時間』編集版 視聴
8	・自己決定への支援	GW	
9	・自己決定への支援	GW	各グループの発表 授業9、10続き
10	・自己決定への支援（解説）	講義	授業9、10続き
11	・家族支援	GW	授業11、12続き 事例を通して考える
12	・家族支援	GW	授業11、12続き
13	・家族支援	GW	各グループの発表
14	4. 在宅療養を支える看護 1) 訪問看護の特徴	講義	
15	2) 在宅ケアを支える訪問看護ステーション	講義	45分
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験・GW内容（ループリック評価）を総合的に評価

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ在宅看護論（1）地域療養を支えるケア（メディカ出版）
ナーシング・グラフィカ在宅看護論（2）在宅療養を支える技術（メディカ出版）

■学習上の留意点

在宅看護論方法論

講師：横井 貴史

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 在宅ケアを支える制度と社会資源を学ぶ
2. 在宅ケアシステムを学び、在宅におけるケアマネジメントが理解できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 在宅ケアを支える制度と社会資源 1) 介護保険制度①	講義	
2	1) 介護保険制度②	講義	
3	2) 高齢者の権利擁護 3) 高齢者虐待	講義	
4	2. 地域包括ケアシステムと在宅ケア 1) 地域包括ケアシステム	講義	
5	2) 保健・医療・福祉の連携 3) 関係職種との連携・協働	講義	
6	3. ケアマネジメントと看護 1) ケアマネジメントの概念 2) ケアマネジメントの過程	講義	
7	3) 在宅ケアマネジメントの実際	講義 GW	
8	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ在宅看護論 (1) 地域療養を支えるケア (メディカ出版)
ナーシング・グラフィカ在宅看護論 (2) 在宅療養を支える技術 (メディカ出版)

■学習上の留意点

在宅看護論援助論 I

講師：伊藤 裕基子、矢野 由美子、
伊藤 精子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 在宅における医療処置管理の方法を学び、援助方法を考えることができる
2. 在宅における様々な状況にある対象の特徴を学び、QOLを維持・向上する支援を考えることができる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 在宅療養者と家族への看護の特徴	講義	45分
2	2. 在宅における医療処置管理の支援と看護 1) 在宅酸素療法	講義	講師：矢野
3	2) 吸引・気管カニューレ 3) 呼吸理学療法	講義	講師：矢野
4	4) 在宅人工呼吸療法	講義	講師：矢野
5	NPPV、カフアシスト	演習	・業者による説明と 体験 ・講堂使用 講師：矢野
6	5) 在宅経管栄養	講義	講師：伊藤裕基子
7	6) 在宅中心静脈栄養	講義	講師：伊藤裕基子
8	7) 褥瘡管理	講義	講師：伊藤裕基子
9	8) 在宅腹膜透析、ストーマ管理	講義	講師：伊藤裕基子
10	3. 在宅で療養する人にみられる主な特徴と看護 1) 脳血管障害のある人と家族への看護 2) 感染症のある人と家族への看護	講義	
11	3) 難病のある人と家族への看護	講義	
12	4) 人生の最期のときを過ごす人と家族への看護	講義	エンド・オブ・ライフケアの視点で考える
13	4) 人生の最期のときを過ごす人と家族への看護	GW	事例を通して看護を考える
14	4) 人生の最期のときを過ごす人と家族への看護	GW	各グループ発表
15	・アドバンスケアプランニング	講義 GW	『もしばなゲーム』 体験
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験と演習内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア（メディカ出版）
ナーシング・グラフィカ在宅看護論②在宅療養を支える技術（メディカ出版）

■学習上の留意点

在宅看護論援助論Ⅱ

講師：伊藤 精子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

- 訪問時のマナーや効果的なコミュニケーションを学び、対象を尊重した対応ができる
- 在宅で療養する人の看護を探究する
- 援助方法や使用物品を工夫し、在宅における日常生活援助を考えることができる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 在宅看護の基本技術 1) 訪問時のマナー 2) 面接、対応 3) 初回訪問	講義	
2	訪問時マナー演習（ロールプレイ）①	GW	授業2、3続き 在宅看護論実習室使用
3	訪問時マナー演習（ロールプレイ）②	GW	授業2、3続き 在宅看護論実習室使用
4	2. 在宅で療養する人の看護 1) 訪問看護記録 2) アセスメントの視点	講義	
5	3) 事例を用いて看護の実際を考える（看護過程） ・アセスメント 療養者の健康状態と日常生活 介護力 住環境、社会資源	GW	個人ワーク後にGWで理解を深める
6	・アセスメントの解説 ・課題抽出、看護目標の設定	講義	
7	・看護計画立案	GW	
8	看護計画の解説	講義	
9	3. 在宅における日常生活援助技術 1) 環境への援助技術 2) 食事援助技術 3) 服薬援助技術	講義	
10	4) 移動援助技術 ①	講義、演習	授業10、11続き 看護実習室使用
11	移動援助技術 ②	演習	授業10、11続き 看護実習室使用
12	5) 清潔援助技術 ①	講義、演習	授業12、13続き 看護実習室使用
13	清潔援助技術 ②	演習	授業12、13続き 看護実習室使用
14	6) 排泄援助技術 ①	講義、演習	授業14、15続き 看護実習室使用
15	排泄援助技術 ②	演習	授業14、15続き 看護実習室使用

■成績評価の方法

事例展開、演習を総合的に評価（ループリック評価）

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ在宅看護論（1）地域療養を支えるケア（メディカ出版）
ナーシング・グラフィカ在宅看護論（2）地域療養を支える技術（メディカ出版）

■学習上の留意点

看護管理

講師：渥美 美保、坂本 昌子、
山崎 則江

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

- よりよい看護サービスを提供するため、看護組織の一員として、医療チームの一員としての看護の役割を学ぶ
- 広がる看護の活動領域について理解し、看護の質の向上が図られていることを学ぶ
- 看護倫理の基本原則と自己の看護実践を振り返る際に基盤となる倫理的行動を探究できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	看護管理の基本となるもの 1) 看護のとは 2) 看護活動の場 3) 専門職間の連携・協働	講義	講師：渥美
2	看護管理の実際 1) 看護管理とは 2) 看護とマネジメント	講義	講師：山崎
3	看護の質向上と看護管理 1) 看護サービスの組織化	講義	講師：山崎
4	看護の質向上と看護管理 1) 看護実践の範囲 2) チーム医療 3) リーダーシップ	講義	講師：山崎
5	看護の質向上と看護管理 1) 安全管理体制 2) 看護実践の評価と改善	講義	講師：山崎
6	看護の質向上と看護管理 1) 患者の権利擁護と看護管理	講義	講師：渥美
7	看護管理に求められる能力 1) 人間関係を構築するスキル 2) 組織の効率化	講義	講師：山崎
8	看護職とキャリア開発	講義	講師：山崎
9	看護実践における倫理的基盤 1) 看護管理と倫理のアプローチ 2) 看護管理と倫理の視点からみる看護実践	講義	講師：渥美
10	看護実践における倫理的基盤 1) 倫理的ジレンマと向き合う	講義 GW	講師：渥美
11	看護実践における倫理的基盤 1) 事例から看護管理と倫理を考える	講義 GW	講師：渥美
12	事例検討「看護における倫理的課題の探究」 1) 臨床倫理の4分割による事例検討 2) 倫理原則に沿った検討	GW	講師：渥美
13	事例検討「看護における倫理的課題の探究」 1) 臨床倫理の4分割による事例検討 2) 倫理原則に沿った検討	GW	講師：渥美
14	広がる看護の活動領域 1) 国際看護とは 2) 看護のグローバル化	講義 GW	講師：坂本
15	広がる看護の活動領域 1) 多様な文化と看護 2) 看護の国際協力活動	講義 GW	講師：坂本
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験90%、看護倫理レポート10%

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践（1）看護管理（メディカ出版）

■学習上の留意点

再試験は100%の筆記試験

医療安全

講師：渕上 裕子

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 医療安全の考え方を学ぶ
2. 医療事故を予防するための安全システムを学ぶ
3. 事故事例とともに、講義や既習の知識を活用し安全対策を考えることができる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	医療事故の考え方 医療安全の基礎知識	講義	
2	医療事故の考え方 ヒューマンエラーについて	講義	
3	看護事故防止と医療安全システム 看護職の法的責任と医療安全 医療安全管理者の活動について 医療事故調査制度	講義	
4	看護における安全対策 医療自己分析	講義	
5	看護における安全対策 医療事故の種類 KYT	講義 GW	
6	看護における安全対策 医療事故の種類 KYT	講義 GW	45分
7	看護における安全対策 輸液ポンプ・シリングポンプの操作とリスク	講義 演習	
8	看護における安全対策 輸液ポンプ・シリングポンプの操作とリスク	講義 演習	

■成績評価の方法

筆記試験・演習を総合的に評価

■テキスト参考書など

ナーシンググラフィカ看護の統合と実践（2）医療安全

■学習上の留意点

災害看護

講師：小林 豊、岡田 祐輔

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 災害が及ぼす影響や災害に対する社会の対応がわかり、社会情勢やニーズについて考えることができる
2. 災害時に必要な技術を学び、科学的根拠に基づいた安全な技術を探究する
3. 災害時における看護活動について学び、災害を想定した看護を考えることができる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	災害と看護活動 1) 災害とは・災害看護とは	講義	講師：岡田
2	災害と看護活動 2) 災害が及ぼす健康への影響 3) 災害時に特徴的な看護ニーズ	講義	講師：岡田
3	災害と看護活動 4) 災害シミュレーションから災害看護へ	講義	講師：岡田
4	災害救援活動 1) 災害時の初動 2) CSCATT	講義	講師：岡田
5	災害に備える 1) 看護学生として災害に備えて 2) 病院における防災 3) 地域における防災	講義	講師：岡田
6	災害の準備と訓練①	講義 演習	講師：岡田
7	災害の準備と訓練②	講義 演習	講師：岡田
8	災害の準備と訓練③	講義	講師：岡田
9	災害看護のまとめ	講義	講師：岡田
10	災害医療総論 ・災害とは（医療の立場から）	講義	講師：小林
11	災害医療総論 ・災害医療とは	講義	講師：小林
12	災害医療各論 ・災害時に必要な知識	講義	講師：小林
13	災害医療各論 ・災害医チーム ・災害医療における連携活動	講義	講師：小林
14	災害時に必要な技術 ・トリアージ ・救急処置（心肺蘇生法・AED） ・応急処置	病院演習	講師：小林
15	災害時に必要な技術 ・搬送に関する知識・技術	病院演習	講師：小林
16	筆記試験		

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践（3）災害看護（メディカ出版）

■学習上の留意点

看護の統合

講師：萱野 明子、木下 美奈子

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 看護師としての自己を振り返り、看護観を深める
2. 看護場面で起こりやすい現象を予測し、倫理的配慮を行いつつ安全な看護が提供できる

■科目内容

回数	学習の内容	方法	備考
1	1. 看護師としての自己を問いただす 1) 自分自身の問題状況の取り組み 2) 自己の看護の方向性に関与している関心 3) 自己の看護実践の基礎となっている理論 4) 自己の看護判断となっている尺度 5) 自己の感情・考え方・習慣	講義 GW	事前に事例レポート提出
2	1. 看護師としての自己を問いただす 1) 自分自身の問題状況の取り組み 2) 自己の看護の方向性に関与している関心 3) 自己の看護実践の基礎となっている理論 4) 自己の看護判断となっている尺度 5) 自己の感情・考え方・習慣	GW	
3	1. 看護場面で起こりやすい現象から考える 1) 看護チームの一員としての役割 2) 報告・連絡・相談と情報の共有 3) 対象の健康状況の把握を行い、必要な援助を判断・選択する 4) 対象と対象をとりまく状況から、援助の優先度を判断する 5) 安全性・安楽性・倫理性・ニードと制約・タイムマネジメントを踏まえ、看護を提供する	GW	
4	1. 看護場面で起こりやすい現象から考える 1) 看護チームの一員としての役割 2) 報告・連絡・相談と情報の共有 3) 対象の健康状況の把握を行い、必要な援助を判断・選択する 4) 対象と対象をとりまく状況から、援助の優先度を判断する 5) 安全性・安楽性・倫理性・ニードと制約・タイムマネジメントを踏まえ、看護を提供する	GW	
5	1. 看護場面で起こりやすい現象から考える 1) 看護チームの一員としての役割 2) 報告・連絡・相談と情報の共有 3) 対象の健康状況の把握を行い、必要な援助を判断・選択する 4) 対象と対象をとりまく状況から、援助の優先度を判断する 5) 安全性・安楽性・倫理性・ニードと制約・タイムマネジメントを踏まえ、看護を提供する	GW 発表	
6	1. 看護場面で起こりやすい現象から考える 1) 看護チームの一員としての役割 2) 報告・連絡・相談と情報の共有 3) 対象の健康状況の把握を行い、必要な援助を判断・選択する 4) 対象と対象をとりまく状況から、援助の優先度を判断する 5) 安全性・安楽性・倫理性・ニードと制約・タイムマネジメントを踏まえ、看護を提供する	GW 発表	
7	1、看護観を深める	発表	
8	1、看護観を深める	発表	

■成績評価の方法

総合的に評価

■テキスト参考書など

なし

■学習上の留意点

9. 講師一覧

科目名	講師名	備考
論理学	下本 英津子	日本福祉大学 非常勤講師 名城大学 非常勤講師 名古屋芸術大学 非常勤講師
看護に生かす物理学	高崎 昭彦	四日市看護医療大学 看護医療学部 臨床検査学科 教授
情報科学	丹羽 尚子	RoboCup Federation ジュニアOnStage 競技委員 元京都造形芸術大学 非常勤講師
外国語(英語Ⅰ)	Jocylin Ayuste Bastian	金城学院大学 非常勤講師 愛北看護専門学校 非常勤講師
外国語(英語Ⅱ)	Jocylin Ayuste Bastian	金城学院大学 非常勤講師 愛北看護専門学校 非常勤講師
哲学	小川 真理子	等光寺 住職
心理学	Keshia Vianny Sundjaja	同志社大学大学院 人間福祉研究科附属 心理臨床センター
教育学	千田 沙也加	元名古屋短期大学 非常勤講師
人間発達学	楯 誠	名古屋経済大学 人間生活科学部 教授
人間関係論	菅 吉基	同志社大学 社会福祉学部 非常勤講師 東海医療科学専門学校 非常勤講師 星城大学リハビリテーション学院 非常勤講師
家族社会学	岡元 行雄	兵庫県立大学 名誉教授
スポーツと健康Ⅰ	脇坂 康彦	愛知江南短期大学 教授
スポーツと健康Ⅱ	榎原 浩文	ヒロヨガ教室 代表兼講師
看護における形態と機能Ⅰ	今井 英夫	尾北医師会 会長 今井医院 院長
看護における形態と機能Ⅱ	佐野 幹	さのクリニック 院長
看護における形態と機能Ⅲ	渡部 敬俊	渡部内科 院長
看護における形態と機能Ⅲ	山下 千代美	尾北看護専門学校 専任教員
看護における形態と機能Ⅲ	丹羽 真美	尾北看護専門学校 専任教員
看護における形態と機能Ⅲ	天野 果奈	尾北看護専門学校 専任教員
看護における形態と機能Ⅳ	天野 果奈	尾北看護専門学校 専任教員
看護における形態と機能Ⅳ	奥山 美佐恵	総合犬山中央病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 外来主任
看護における形態と機能Ⅳ	石崎 敦子	尾北看護専門学校 専任教員
看護における形態と機能Ⅴ	白木 精	医療法人白木ふそう耳鼻咽喉科 理事長
看護における形態と機能Ⅴ	川部 幹子	コスマス眼科 院長
看護における形態と機能Ⅴ	萱野 明子	尾北看護専門学校 実習調整者
看護における形態と機能Ⅴ	奥山 美佐恵	総合犬山中央病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 外来主任
看護における形態と機能VI	木下 美奈子	尾北看護専門学校 副校長
臨床生化学	安部 彰	岐阜医療科学大学 名誉教授
病因論	福山 隆一	江南厚生病院 病理診断科 代表部長
臨床薬理学	田中 廣美	江南厚生病院 薬剤部 薬剤科員
微生物学	舟橋 恵二	江南厚生病院 臨床検査技術科 技師長
健康障害と治療Ⅰ	荒木 有三	総合犬山中央病院 副院長・救急担当部長・脳神経外科統括部長

健康障害と治療 I	藤林 孝義	江南厚生病院 第二整形外科部長兼リウマチ科部長兼リハビリテーション科部長
健康障害と治療 I	加藤 宗一	江南厚生病院 第三整形外科部長兼手外科部長
健康障害と治療 II	闇目 美穂子	いわくら内科・呼吸器内科クリニック 院長
健康障害と治療 II	片岡 浩樹	江南厚生病院 第一循環器内科部長
健康障害と治療 III	福島 康晃	江南厚生病院 第二血液・腫瘍内科部長
健康障害と治療 III	阪野 里花	江南厚生病院 第二泌尿器科部長
健康障害と治療 III	平松 武幸	江南厚生病院 透析センター長兼腎臓内科代表部長
健康障害と治療 IV	佐々木 洋治	江南厚生病院 副院長兼保健事業部長兼内視鏡センター長兼消化器内科代表部長
健康障害と治療 IV	福井 貴巳	総合犬山中央病院 副院長兼外科統括部長
健康障害と治療 V	武石 宗一	総合犬山中央病院 内科統括副部長兼糖尿病内科医長
健康障害と治療 V	川部 幹子	コスモス眼科 院長
健康障害と治療 V	白木 精	医療法人白木ふそう耳鼻咽喉科 理事長
健康障害と治療 V	小島 伸恭	こじま医院 院長
健康障害と治療 VI	水野 輝子	江南厚生病院 第二産婦人科部長
健康障害と治療 VI	尾崎 隆男	江南厚生病院 病院顧問 こども医療センター顧問
医療概論	齊藤 雅也	社会医療法人 志聖会 総合犬山中央病院 院長
看護と法律	白村 大勲	せせらぎ法律事務所 弁護士
公衆衛生学 I	田中 ひとみ	岐阜医療科学大学 保健科学部臨床検査学科助教
科目名	講師名	備考
公衆衛生学 II	江口 智美	江南厚生病院 健康管理センター 係長
社会福祉	千葉 忠道	東海学院大学 非常勤講師 岐阜協立大学 非常勤講師 岐阜県立多治見看護専門学校 非常勤講師 名鉄看護専門学校 非常勤講師 中部労災看護専門学校 非常勤講師 えきさい看護専門学校 非常勤講師 東濃看護専門学校 非常勤講師 岐阜県立下呂看護専門学校 非常勤講師
リハビリテーション論	足立 勇	江南厚生病院 リハビリテーション技術科 課長
基礎看護学概論	渥美 美保	尾北看護専門学校 教務主任
基礎看護学概論	加藤 僚子	尾北看護専門学校 専任教員
看護における共通技術	山下 千代美	尾北看護専門学校 専任教員
看護における共通技術	小濱 美保	可児とうのう病院 感染管理認定看護師
看護における共通技術	加藤 僚子	尾北看護専門学校 専任教員
フィジカルアセスメント I	渥美 美保	尾北看護専門学校 教務主任
フィジカルアセスメント I	丹羽 恵理	尾北看護専門学校 専任教員
フィジカルアセスメント I	山下 千代美	尾北看護専門学校 専任教員
フィジカルアセスメント II	丹羽 恵理	尾北看護専門学校 専任教員
日常生活援助技術 I	丹羽 恵理	尾北看護専門学校 専任教員
日常生活援助技術 I	天野 果奈	尾北看護専門学校 専任教員

日常生活援助技術Ⅱ	川口 志帆	尾北看護専門学校 専任教員
日常生活援助技術Ⅱ	天野 果奈	尾北看護専門学校 専任教員
日常生活援助技術Ⅲ	伊藤 精子	尾北看護専門学校 専任教員
日常生活援助技術Ⅲ	萱野 明子	尾北看護専門学校 実習調整者
診療補助技術	天野 果奈	尾北看護専門学校 専任教員
看護過程	木下 美奈子	尾北看護専門学校 副校長
基礎臨床看護論	天野 果奈	尾北看護専門学校 専任教員
基礎臨床看護論	渥美 美保	尾北看護専門学校 教務主任
指導技術	渥美 美保	尾北看護専門学校 教務主任
指導技術	丹羽 恵理	尾北看護専門学校 専任教員
看護研究Ⅰ	石崎 敦子	尾北看護専門学校 専任教員
看護研究Ⅱ	萱野 明子	尾北看護専門学校 実習調整者
成人看護学概論	山下 千代美	尾北看護専門学校 専任教員
成人看護学概論	丹羽 恵理	尾北看護専門学校 専任教員
成人看護学援助論Ⅰ	山下 千代美	尾北看護専門学校 専任教員
成人看護学援助論Ⅰ	金井 香子	江南厚生病院 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
成人看護学援助論Ⅱ	山下 千代美	尾北看護専門学校 専任教員
成人看護学援助論Ⅱ	渥美 美保	尾北看護専門学校 教務主任
成人看護学援助論Ⅲ	丹羽 恵理	尾北看護専門学校 専任教員
成人看護学援助論Ⅲ	斎木 真美	総合犬山中央病院 看護長
成人看護学援助論Ⅲ	櫻井 みどり	江南厚生病院 看護係長
成人看護学援助論Ⅳ	祖父江 正代	江南厚生病院 がん看護専門看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 看護課長
成人看護学援助論Ⅳ	高倉 梢	江南厚生病院 がん性疼痛看護認定看護師
成人看護学援助論Ⅳ	丹羽 あゆみ	江南厚生病院 看護課長
成人看護学援助論Ⅳ	川口 志帆	尾北看護専門学校 専任教員
成人看護学援助論Ⅳ	渥美 美保	尾北看護専門学校 教務主任
成人臨床看護論	山下 千代美	尾北看護専門学校 専任教員
成人臨床看護論	丹羽 真美	尾北看護専門学校 専任教員
老年看護学概論	加藤 僚子	尾北看護専門学校 専任教員
老年看護学援助論Ⅰ	加藤 僚子	尾北看護専門学校 専任教員
老年看護学援助論Ⅰ	奥山 美佐恵	総合犬山中央病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 外来主任
老年看護学援助論Ⅰ	伊藤 精子	尾北看護専門学校 専任教員
老年看護学援助論Ⅱ	天野 果奈	尾北看護専門学校 専任教員
老年看護学援助論Ⅱ	奥山 美佐恵	総合犬山中央病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 外来主任
老年看護学援助論Ⅱ	加藤 僚子	尾北看護専門学校 専任教員
老年看護学援助論Ⅱ	栄田 みゆき	総合犬山中央病院 地域医療連携室 看護副部長兼副室長
老年看護学援助論Ⅲ	加藤 僚子	尾北看護専門学校 専任教員

科目名	講師名	備考
小児看護学概論	渥美 美保	尾北看護専門学校 教務主任
小児看護学概論	石崎 敦子	尾北看護専門学校 専任教員
小児看護学援助論 I	石崎 敦子	尾北看護専門学校 専任教員
小児看護学援助論 II	上田 みづほ	江南厚生病院 小児救急看護認定看護師 看護係長
小児看護学援助論 II	安藤 都子	江南厚生病院 看護係長
小児看護学援助論 II	伊藤 悅代	江南厚生病院 看護係長
小児看護学援助論 III	石崎 敦子	尾北看護専門学校 専任教員
母性看護学概論	梶野 葉子	小牧保健センター 助産師
母性看護学概論	坂本 昌子	元尾北看護専門学校 教員
母性看護学援助論 I	坂本 昌子	元尾北看護専門学校 教員
母性看護学援助論 II	勝田 絵美	江南厚生病院 助産師
母性看護学援助論 II	坂本 昌子	元尾北看護専門学校 教員
母性看護学援助論 III	坂本 昌子	元尾北看護専門学校 教員
精神看護学概論	伊藤 要	東舞鶴医誠会病院 地域医療連携室 室長
精神看護学概論	萱野 明子	尾北看護専門学校 実習調整者
精神看護学方法論	高木 友徳	ともこころのクリニック 院長
精神看護学方法論	萱野 明子	尾北看護専門学校 実習調整者
精神看護学援助論 I	伊藤 博吉	犬山病院 看護師長
精神看護学援助論 I	舘 わかな	犬山病院 看護師長
精神看護学援助論 II	萱野 明子	尾北看護専門学校 実習調整者
在宅看護論概論	伊藤 精子	尾北看護専門学校 専任教員
在宅看護論方法論	横井 貴史	社会福祉法人サン・ビジョン 社会貢献事業推進室 調査役
在宅看護論援助論 I	矢野 由美子	江南厚生病院訪問看護ステーション 訪問看護認定看護師 看護係長
在宅看護論援助論 I	伊藤 裕基子	江南厚生病院 地域連携部 地域医療福祉連携室 患者相談支援センター 訪問看護認定看護師
在宅看護論援助論 I	伊藤 精子	尾北看護専門学校 専任教員
在宅看護論援助論 II	伊藤 精子	尾北看護専門学校 専任教員
看護管理	山崎 則江	江南厚生病院 副看護部長
看護管理	渥美 美保	尾北看護専門学校 教務主任
看護管理	坂本 昌子	元尾北看護専門学校 教員
医療安全	渕上 裕子	総合犬山中央病院 看護長
災害看護	小林 豊	さくら総合病院 理事長・病院長
災害看護	岡田 祐輔	さくら総合病院 看護師
看護の統合	萱野 明子	尾北看護専門学校 実習調整者
看護の統合	木下 美奈子	尾北看護専門学校 副校長